サマースクール 2025in 函館

実施報告書

【第 29 号】

北海道教育大学函館校
サマースクール 2025in 函館　実行委員会

（令和 7 年度北海道教育大学函館校「フレンドシップ事業」実施報告書）

Contents ｜ 目次

	巻頭言	藤井壽夫(函 館 市 教 育 委 員 会 教 育 長)	1
	はじめに	細谷一博(サマースクール 2025in 函館実行委員会代表)	2
第 1 章	フレンドシップ事業実施報告		3
1.	フレンドシップ事業　事業概要		3
2.	組織・運営体制		5
3.	学生/高校生ボランティア学習会		6
第 2 章	第 29 回サマースクール in 函館実施報告		9
1.	サマースクール 2025in 函館について		9
2.	各ブロックの概要		19
1）	幼稚園ブロック		19
2）	小学生ブロック		20
3）	中学・高校生ブロック		21
3.	サマースクール活動紹介		22
1）	幼稚園ブロック		22
2）	小学生ブロック		26
3）	中高生ブロック		32
4）	めばり活動		36
5）	アダプテットスポーツ		37
6）	音楽活動		38
7）	縁日		39
4.	運営		40
5.	係活動		44
6.	参加者の声		48
資料	新聞記事・寄付金・地域探究学習		51
	実行委員名簿		
	編集後記		

※「障害」の表記について

本報告書では文部科学省の表記に合わせて「害」を漢字で表記している箇所がございます。

巻頭言

発刊に寄せて

函館市教育委員会　教育長　藤　井　壽　夫

今年で２９年目を迎えた「サマースクール 2025 in 函館」が，成功裡に終了されましたこと，心からお喜び申し上げます。

本事業は，関係者の皆様の熱意と努力により，平成９年から脈々と続いている事業であり，令和４年１２月には，地域に根差した長年の活動実績が高く評価され，文部科学省が選定を行う「障害者の生涯学習支援活動」で文部科学大臣表彰を受賞するなど，我々函館市民にとっても大変誇らしい事業であります。

今年度におきましては，令和７年８月６日（水）～９日（土）の４日間の日程で函館市立八幡小学校において開催され，参加した子どもたちは，例年の活動に加え，プール遊びやクッキング，音楽活動などの新たな取組にも楽しんで参加するなど，多くの人との交流とたくさんの素敵な思い出をつくることができたことと思います。

さて，本市の特別支援教育におきましては，子どもの可能性を最大限に伸ばすことを目指し，特別支援教育支援員の配置の拡充や通級指導教室における支援の充実，多様な子どもたちの教育的ニーズへの対応や障がいについて理解を深める教員研修を実施するなどして，一人一人の子どもに応じたきめ細かな指導・支援に努めております。

また，本市では，障がいの有無や年齢，性別，国籍の違いを超えて多様性を認め合う「インクルージョン」の理念の普及に努めており，自分とは違う他者を認め，お互いに尊重し支え合いながら共存・共生できる社会の形成を目指しています。

本事業は，まさに，これらの理念等を具現化した取組であり，開催にご尽力いただきました北海道教育大学函館校の先生方や卒業生，学生で構成された実行委員の皆様，多くのボランティアの皆様には，心から感謝申し上げます。

結びになりますが，本事業が，道南圏の子どもたちにとってかけがえのない取組として今後もより一層発展し，保護者の思いや願いに応える場となることをご期待申し上げますとともに，開催にご尽力いただきました皆様に心から感謝を申し上げ，発刊に寄せてのことばといたします。

29年目のサマースクールを終えて

サマースクール 2025in 函館
実行委員会　代表　細谷一博

８月９日をもちまして今年度の活動を無事に終えることができました。ご参加いただきました子どもたちや保護者の皆様をはじめ、函館市教育委員会様、北斗市教育委員会様、七飯町教育委員会様、函館市立八幡小学校の先生方のおかげと感謝申し上げます。

ご参加いただきました児童生徒の皆様、保護者の皆様、今年度の活動はいかがでしたでしょうか。サマースクールは函館市、北斗市、七飯町に住んでいる医学的な診断のある子どもに限定することなく、特別な教育的ニーズのある子ども達の長期休業中の余暇を支援するため、楽しい夏休みや楽しい活動を提供することを目的としております。

今年度で29年目を迎えた本活動ですが、2024年11月18日に第1回実行委員会を開催し、志ある学生32名が集まってくれました。その後、何度も打合せや教材づくりを繰り返し、当日を迎えることができました。

今年度から昼食をはさんだ一日日程を計画したり、調理活動を復活させたりとコロナ渦以前の活動を展開すべく準備に取り掛かりました。そんな学生の姿を見ていると、“子ども達が笑顔になるためには？”“どうすれば楽しんでくれるのか？”“〇〇君はこうなるかな？”など、実際の子どもの姿を想像しながら取り組んでおり、熱心に教材を作る姿には頭が下がります。

それだけ時間をかけて準備をした活動に“めばり活動”があります。大きな布に自由に絵を描くわけですが、本来であれば“真っ白なところに自由に･･･”を苦手とする子ども達です。様子を見ているとやはり最初は躊躇して、なかなか書き出せないのですが、誰かが書き始めるとその様子を見ていて、つられるように絵を描き始めることができました。このような他者を「模倣」する姿こそ子ども達の成長に欠かすことのできない経験であり、それを実現することができるのがサマースクールです。

サマースクールは安全を大前提とした自由な活動で構成されており、学校生活では出会うことのない人と共に活動をすることで、人間関係や社会性の育成の一端を担っております。また我々にとっても子ども達から学ぶ絶好の機会でもあります。今年度の経験を翌年の活動に活かすべく、学生とともに参加してくる子供のために取り組んでまいりたいと思います。

この報告書が皆様のお手元に届く頃には、「サマースクール 2026in函館」の準備が始まっていると思います。次年度は30周年の記念の年になります。再び皆様にお会いできるのを楽しみにしていますので、これまでと変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第 1 章　フレンドシップ事業実施報告

1.フレンドシップ事業概要
1)令和 7 年度北海道教育大学函館校「フレンドシップ事業」フレンドシップ事業運営委員会

フレンドシップ事業とは、平成 9 年度より文部省が予算化した事業で、教員養成大学・学部の教職を志す学生が、様々な体験学習を通して児童生徒と直接ふれあい、ともに学ぶことにより、教員としての「実践的指導力」の基礎を養うことを目的としています。この事業に参加したものには単位を認定することになっています。

函館校では、平成 12 年度より「フレンドシップ事業」として、障害のある子どもたちの「サマースクール」を開催することとし、参加学生には、地域教育専攻の専攻科目「フィールド研究Ⅰ」(2 単位)が認定されています。

下記のシラバスを熟読の上、奮って参加して下さい。なお、単位取得のみを目的とするのではなく、ボランティア精神、実践の意味をしっかり受け止めた上での参加を期待しています。

なお、サマースクールの具体的な内容については、本実施報告書をご参照ください。

(1) 受講手続き
前期集中講義扱いとなりますので、その期間中に受講登録の必要があります。

(2) 授業科目名
「フィールド研究Ⅰ」
担当教員：細谷　一博(地域教育専攻　教授)
五十嵐靖夫(地域教育専攻　教授)
廣畑　圭介(地域協働専攻　講師)

(3) 講義概要
障害のある子どもたちの休日や長期休暇に対する支援プログラムは、地域の切実なニーズである。本講義では、子どもたちに充実した夏休みを提供することを目的に市立小学校を会場として 4 日間実施される「サマースクール in 函館」に参加する。参加児童生徒は、函館市及び近郊の特別支援学級、特別支援学校に在籍または、通級指導教室を利用する知的障害(自閉症、重複障害を含む)を持つ子どもたちである。本年度は幼稚園生から高校生まで、33 名が参加した。受講学生は、4 日間の「サマースクール」の企画、運営、活動内容、児童生徒の実態把握、指導を中心となって検討・実践する。大学教員及び現職の障害児教育専門家が助言、サポートを行う。学生 1、2 人が児童生徒 1 人を担当し、子どもの実態把握、親との情報交換、4 日間の指導の責任を持つ。この実践を通して、障害のある子どもたちや親、現職の専門家と直接ふれあうことによって、障害児理解、保護者との連携、指導方法などを体験的に学び、障害児教育だけでなく、より普遍的な実践的指導力の基礎を養う。同時に、学生達に社会的視野の広がり、価値観の転換、自己発見の機会とな

ることを期待している。

(4) 講義日程

日程	内容
7/1（火）	サマースクール全体説明会
7/11,18,25（金）	教材作り
7/22（火）	ボランティア勉強会
8/4（月）	サマースクール最終説明会
8/5（火）	前日準備
8/6（水）～8/9日（土）	サマースクール2025 in函館
8/9（土）	大掃除，後片付け

(5) 評価

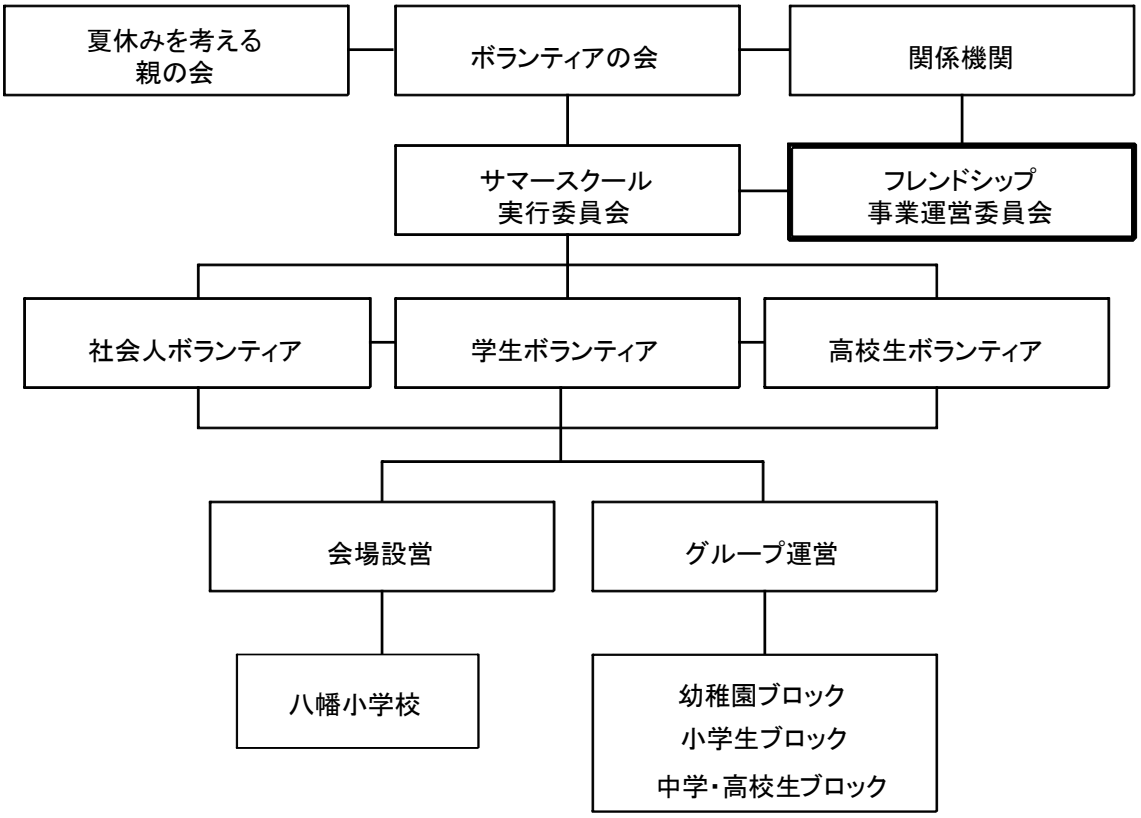
サマースクールの準備への積極的な参画、サマースクールへの参加、反省会の参加、レポートの提出、これらを総合的に評価する。

2) 第 29 回「サマースクール 2025 in 函館」活動内容

フレンドシップ事業は、「サマースクール 2025 in 函館」実行委員会が主催する活動に学生ボランティアとして参加する形態を取っている。

※詳しくは「2.組織・運営体制」をご覧ください。

2.組織・運営体制



令和 6 年度フレンドシップ事業運営委員会

委員長　　細谷一博(サマースクール実行委員会代表・地域教育専攻　教授)

大学委員　地域教育専攻　教授　　五十嵐靖夫

　　地域協働専攻　講師　　廣畑　圭介

附属学校委員　附属特別支援学校　副校長・各学部主事

学外協力委員　函館市教育委員会

　　函館市立八幡小学校　校長・教頭

サポート教員　附属特別支援学校教員　北斗市立浜分小学校 1 名

3.学生ボランティア学習会
1)学習会開催要綱

学生ボランティア学習会の開催について

「サマースクール 2025 in 函館」代表
フレンドシップ事業運営委員長
細谷　一博

サマースクール実施に当たり、学生ボランティアを対象に下記の通り学習会を開催します。サマースクール参加学生は、必ず参加して下さい。

記

日　時　　令和 7 年 7 月 22 日(火)　18:00～19:00

場　所　　北海道教育大学函館校　第 14 講義室

参加対象　　令和 7 年度フレンドシップ事業に参加する学生並びに
　　サマースクール 2025 in 函館に参加する学生ボランティア

講　師　　南澤　綾都先生（北斗市立浜分小学校教諭）

内　容　　「障害児とのかかわりについて」

※　サマースクールに参加する学生は、上記の日程に必ず参加すること。
　　この学習会に参加することがサマースクール参加資格となる。

以上

2)学生ボランティア学習会概要

(1) サマースクールを楽しむために

・学生の役割＝ボランティア(お兄さん・お姉さん)として運営や子どもたちの手助けをする　⇒自分自身も楽しむ！

3 つのポイント

①子どものことを理解しようとする

②安全を常に確保する

③みんなでサポートしあう(学生、保護者、社会人など)

⇒3 つとも大事！

子どもたちと接していて、困ったことがあったら、実行委員や社会人ボランティアに相談する。

(2) 子どもへの接し方

・まずはこの子ども自身を理解しようとする。子どもの目線で物事を考えてみる。

⇒「理解する」のではなく「理解しようとする」ことが大事です。子どもの共通の支援者となるみなさんにとって必要なのは、専門的知識ではなく、その子自身に対する知識。

・指示は簡潔＆具体的にする。

⇒否定語は控えめに。「いつ」「どこで」「どうする」など、伝えるポイントを絞るのですが、子どもによって使っていい言葉は違います。それを理解するためには子どもを理解しようとすることが必要になっていきます。

・生活年齢を意識する。

⇒年齢相応の対応を。先生や保護者と相談し、グループ内で対応を決めると◎！

※言葉がない子でも自分の意思をちゃんと持っています。言葉以外にも動作や表情などサインを出しているはず！学生がサインを受け止めることが、子どもと仲良くなる第 1 歩です。サインなんてわかんないよ！そう思う人も少なくないはずです。わかんないよ！と思うのは正解です。わかんないよ！と思ったあとにどうするかが大切です。

(3)ダウン症の子ども達への接し方

・性格は明るく頑固。ハメを外しやすい一方、体力や筋力は不足気味の子が多い。

⇒子どもの様子をみて、適度にセーブをかけることも大事。どうしても動かなくなった時は、無理せずチーフや社会人に相談する。

・身体が柔らかく、首が弱い子や心疾患の子が多い。

⇒高所からの飛び降りや走りすぎなど、首や心臓に負担のかかる行為は避ける。

(4) 自閉症の子ども達への接し方

・言葉を聞き取ること(耳からの情報)が苦手な子が多い(外国語で話しかけられている感覚)。

⇒絵や写真など、目からの情報は比較的理解しやすい(百聞は一見に如かず！)。

・情報の理解力、応用力が乏しい子が多く、活動に見通しを持ちにくい子が多い。
⇒スケジュールは有効。その子どものスケジュールをよく見てみましょう。他にも「ここは〇〇をする場所」と決めると見通しが持ちやすいかも。
・感覚異常(触覚、聴覚、体温調整など)を訴える子が多い。
⇒耳をふさぐ、ものを触りたがらないといったサインを見逃さない！保護者からの情報も大切に。
・強いこだわりを持つ子が多い。
⇒内容は子どもによって様々。無理に中断させるより、事前にこだわらない環境を作る方が大切。その子にとってどうすることが一番良いのかを常に考えましょう。支援者が環境を作っています。

(5) サマースクールで気をつけること

・安全の意識が乏しい子(特に幼稚園児、小学生)が多いです。道路での飛び出しや飛び降りなど事故を防ぐため、手をつなぐ、学生を車道側にして歩くなどの配慮が大切です。道路だけではありません。教室環境に配慮できていますか？支援者自身の服装などはどうですか？常に注意して下さい。
・子どものやりたがる活動がすべて安全とは限りません。子どものペースに付き合いすぎないようにしましょう。
・刃物はもちろん、意外なもので事故になる恐れ(粘土や絵具、シャボン液の誤飲など)があります。道具の管理は慎重に行ってください。
・マンツーマン体制は自分が見過ごした時、非常に危険です。細心の注意を払ってください。トイレを含め、場所を移動する際は必ずグループの人に一声かけましょう。
・些細なことでも構わないので、子どもの様子がおかしい時や危険なことがあれば、すぐにチーフや社会人に知らせてください。
・できない部分は遠慮なく他の人に頼みましょう。

◆常に子どもの目線にたって考える。＝自分とは違うものの見方、考え方をしてみる。
◆周りの共同支援者のみなさんとも、一緒にボランティアをしていることを忘れない。

◆笑顔と挨拶を忘れない！！

第 2 章　第 29 回サマースクール in 函館　実施報告書

1．サマースクール 2025 in 函館について

第 29 回「サマースクール in 函館」実行委員長　古川　心菜

今年度も「サマースクール 2025 in 函館」は皆様のおかげで無事終了することができました。今年度は幼稚園ブロックから中高生ブロックまで5グループに分かれ、33 名の子ども達が参加しました。多くの学生ボランティア、高校生ボランティア、社会人ボランティアの方々にご協力いただき、安全で、楽しい4日間にできたことを大変嬉しく思っております。心より感謝申し上げます。

今年度はコロナ禍以前のように昼食を食べ、午後の活動も行いました。1日を通した開催により、子ども達とゆっくりと、多くの時間を過ごせました。また、小学生ブロック、中高生ブロックはクッキングの活動も再開することができました。そして、新たな試みとなる音楽活動では、子ども達が自由に音を楽しみながら学生ボランティアと音の違いを感じている様子も見ることができました。毎年恒例であるめばり活動では、初めて幼稚園ブロックが参加し、全ブロックでの活動となりました。ブロックの枠を越えた交流もあり、とても楽しい活動となりました。

サマースクール1日目、不安な顔をして登校する子、出会ってすぐに学生ボランティアと手を繋いで学校に入る子など様々でしたが2日目にはすっかり慣れ、「今日は何をするの！」と学校に足早に入る姿が見られました。そして4日目にはお兄さん、お姉さんとの別れを惜しみ、「また来年も会おうね！」と約束する姿もありました。そして子ども達と同様に、サマースクールが始まる前は子どもが一緒に遊んでくれるだろうかと心配していた学生ボランティアの方々も、子ども達が帰ると「今日はこんなことがあった！」と学生同士で会話している様子が見られ、明日もっと楽しんでもらうためにはどんなことができるかと考えている様子もありました。準備段階から子ども達が好きな物や遊びをふまえて教材作りを行ったり、当日全力で遊ぶ姿を見せてくれた学生ボランティアの方々には本当に感謝しかありません。

昨年の 11 月から今年度の実行委員が結成され、子ども達の思い出に残る活動を全員で考え続けてきました。サマースクールは子ども達に楽しい夏休みを提供することが目的ですが、子ども達と過ごす4日間は大学生にとっても、思いだすと心が温かくなるような素敵な思い出となっています。そして、サマースクールが終わると前年度の思い出を大切に抱えながら次のサマースクールは何ができるかと毎年考えています。子ども達がたくさんの気づきと学びを与えてくれるからこそ、実行委員は成長できると日々感じております。

サマースクールは来年度、30 回目を迎えます。皆様のご協力に感謝しながら、子ども達の笑顔を原動力に、変わらず子ども達にとって楽しい活動は何かを考え続けてまいります。

最後になりますが、サマースクールに携わっていただいた、学生ボランティア・高校生ボランティアの皆様、社会人ボランティアの皆様、八幡小学校の皆様、その他の皆様、本当にありがとうございました。

2.「サマースクール 2025in 函館」実施概要

1) 趣旨・目的

1997 年の夏、障害のある子ども達の夏期休暇を支援するために北海道教育大学函館校の学生を中心とするボランティア組織「サマースクール in 函館」実行委員会が立ち上がり、夏期休暇中に1週間のサマースクールを実施してきました。今年度で 29 年目を迎え、多くの課題を抱えながらも障害のある子ども達の夏期休暇中の地域の活動として定着してきました。

さて、障害をもっている児童生徒の余暇の過ごし方については、1992 年の学校週 5 日制を契機に、放課後や週末(土日)の過ごし方、長期休業中の過ごし方など多くの問題が指摘されております。特に長期休業中における余暇活動は、人的・物理的に制約が大きく限りがあるとともに、保護者負担の増加が懸念されております。

そこで、本活動では特別な教育的ニーズのる子どもを対象に楽しい夏休みを提供する場を確保し、日頃経験することのできない楽しい活動を提供することを目的としております。

2) 主催 「サマースクール 2025 in 函館」実行委員会

代 表　細谷 一博(北海道教育大学函館校 教授)
副代表　五十嵐 靖夫(北海道教育大学函館校 教授)
廣畑 圭介(北海道教育大学函館校 講師)
金木 彩子(北海道教育大学特別支援学校 教諭)
実行委員長　古川 心菜(北海道教育大学函館校 4 年)
副実行委員長　渡邊 菜々子(北海道教育大学函館校 4年)

3) 共催　北海道教育大学函館校「フレンドシップ事業」

4) 後援　函館市教育委員会

5) 協力機関

函館市立八幡小学校、北海道教育大学函館校、 北海道教育大学附属特別支援学校

6) 参加対象と参加条件

＜参加対象＞

今年度から以下の方を対象といたします。

①函館市内又は北斗市内、七飯町内に在住の特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒

②函館市内又は北斗市内、七飯町内の特別支援学級、特別支援学校に在籍している児童生徒

③函館市内の通級指導教室を利用している児童生徒
④函館市内の児童発達支援センターに在籍している年長児

＜参加条件＞
参加する上で以下の 3 つの条件をお守りください。
〇保護者説明会と個別ミーティングに必ず参加すること。
〇各書類の提出〆切を厳守すること。
〇提出した書類の内容に不備がないこと。
※上記の条件を満たされない場合は、参加をお断りさせて頂きます。

7) 定員　〇幼稚園ブロック･･･6 名
〇小学生ブロック･･･20 名
〇中学･高校生ブロック･･･20 名
※各ブロックで定員を超えた場合は厳正な抽選によって決めさせていただきます。

8) 実施期間　2025 年 8 月 6 日(水) ～ 8 月 9 日(土)
（1～3日目は 14:30 頃終了予定、4日目のみ 12:30 頃終了予定）

9) 実施会場
函館市立八幡小学校（本部及び活動会場）
※本部(集合)は八幡小学校になります。

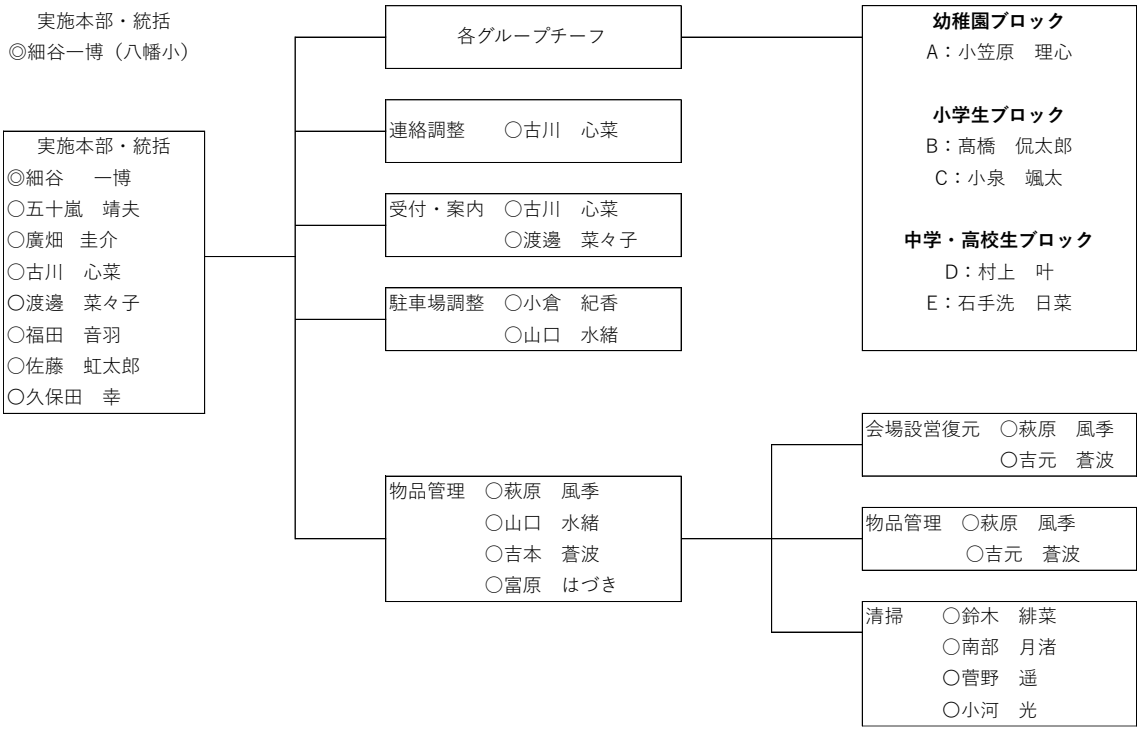
10) 支援者
学生ボランティア（北海道教育大学函館校学生）
高校生ボランティア(市立函館高等学校)
社会人ボランティア（教員、寄宿舎指導員、施設指導員、保護者など）

11) 必要経費
参加費:¥2000（参加日数に関係なく一律徴収）
保険費:¥30×4 日間　¥120（参加日数に関係なく一律徴収）
その他:活動に合わせて実費徴収

12）実施計画

	8/6（水）	8/7（木）	8/8（金）	8/9（土）
午前	開会式			
	幼　：自己紹介 シャボン玉	幼　：外出活動	幼　：水遊び	幼　：縁日
	小　：自己紹介 音楽活動	小　：水遊び	小　：外出活動	小　：縁日
	中高　：アクティビティ ロケットストロー	中高　：外出活動	中高　：アダプテットスポーツ 音楽活動	中高　：縁日
				閉会式
午後	幼　：めばり活動	幼　：製作活動	幼　：アダプテットスポーツ	
	小　：めばり活動	小　：クッキング	小　：製作活動	
	中高　：めばり活動	中高　：製作活動	中高：クッキング	

13）実施組織・運営体制



14）参加者・ボランティア総数

参加者総数　　児童・生徒　　33名（幼稚園児　6名　小学生　19名　中学・高校生　9名）

実行委員　　32名

学生ボランティア　　54名

高校生ボランティア　　7名

社会人ボランティア　　38名

・日程別参加者

	６日（水）	７日（木）	８日（金）	９日（土）
児童生徒	33	33	32	32
実行委員	32	32	32	32
学生ボランティア	53	52	53	53
高校生ボランティア	5	5	5	5
社会人ボランティア	22	19	18	17
合計	145	141	140	139

・グループ別参加者数

ブロック及びグループ		子ども	学生 Bo.	高校生 Bo.	社会人 Bo.
幼稚園ブロック	A	6 名	12 名	1 名	5 名
小学生ブロック	B	9 名	15 名	3 名	13 名
	C	9 名	17 名	1 名	8 名
中・高生ブロック	D	4 名	5 名	1 名	6 名
	E	5 名	5 名	1 名	4 名

15) 各ブロックスケジュール

(1)幼稚園ブロック

<table>
<tr><th>時間</th><th>8月6日（水）</th><th>8月7日（木）</th><th>8月8日（金）</th><th>8月9日（土）</th></tr>
<tr><td>8：00</td><td colspan="4">ボランティア登校・ミーティング</td></tr>
<tr><td>9：15</td><td colspan="4">子ども登校</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9：30
～11：20</td><td>開会式</td><td rowspan="3">外出活動
（こどもの国）

※雨天時は
室内遊び</td><td rowspan="3">水遊び</td><td rowspan="3">縁日</td></tr>
<tr><td>グループ活動
（自己紹介・シャボン玉）</td></tr>
<tr><td>11：30</td><td rowspan="2">昼食</td></tr>
<tr><td>12：00</td><td colspan="2" rowspan="2">昼食</td><td rowspan="2">閉会式</td></tr>
<tr><td>12：40</td><td rowspan="2">めばり活動</td></tr>
<tr><td>13：10</td><td>製作活動
（アイスけん玉）</td><td>アダプテット
スポーツ</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>14：30</td><td colspan="3">子ども下校</td></tr>
</table>

(2)小学生ブロック

<table>
<tr><th>時間</th><th>8月6日（水）</th><th>8月7日（木）</th><th>8月8日（金）</th><th>8月9日（土）</th></tr>
<tr><td>8：00</td><td colspan="4">ボランティア登校・ミーティング</td></tr>
<tr><td>9：15</td><td colspan="4">子ども登校</td></tr>
<tr><td rowspan="3">9：30
～11：20</td><td>開会式</td><td rowspan="3">水遊び
※雨天時も同様</td><td rowspan="3">外出活動
※雨天時は
室内遊び</td><td rowspan="3">縁日</td></tr>
<tr><td>グループ活動
（自己紹介等）</td></tr>
<tr><td>音楽活動</td></tr>
<tr><td>11：30</td><td rowspan="2">昼食</td></tr>
<tr><td>12：00</td><td colspan="2" rowspan="2">昼食</td><td rowspan="2">閉会式</td></tr>
<tr><td>12：40</td><td rowspan="2">めばり活動</td></tr>
<tr><td>13：10</td><td>クッキング
（おかしパフェ）</td><td>製作活動
（ぴょんぴょん
ロケット）</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>14：30</td><td colspan="3">子ども下校</td></tr>
</table>

(3) 中学生・高校生ブロック

<table>
<tr><th>時間</th><th>8月6日（水）</th><th>8月7日（木）</th><th>8月8日（金）</th><th>8月9日（土）</th></tr>
<tr><td>8：00</td><td colspan="4">ボランティア登校・ミーティング</td></tr>
<tr><td>9：15</td><td colspan="4">子ども登校</td></tr>
<tr><td rowspan="3">9：30
～11：20</td><td>開会式</td><td rowspan="4">外出活動
（はこだてみらい館）

※雨天時も同様</td><td rowspan="2">アダプテッド
スポーツ</td><td rowspan="4">縁日</td></tr>
<tr><td>グループ活動
（アクティビティ）</td></tr>
<tr><td>ブロック活動
（ロケットストロー）</td><td rowspan="2">音楽活動</td></tr>
<tr><td>11：30</td><td rowspan="2">昼食</td></tr>
<tr><td>12：00</td><td colspan="2" rowspan="2">昼食</td><td rowspan="2">閉会式</td></tr>
<tr><td>12：40</td><td rowspan="2">めばり活動</td></tr>
<tr><td>13：10</td><td>製作活動
（コースター）</td><td>クッキング
（ヨーグルトパフェ）</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>14：30</td><td colspan="3">子ども下校</td></tr>
</table>

16）準備期間スケジュール

11月	18日	【第１回実行委員会】
		・実行委員長，副実行委員長の選出・ブロック振り分け
12月	6日	【第２回実行委員会】
		・各ブロック統括，副統括の選出，各グループチーフ，サブチーフの選出，各係の担当者を決定
1月	16日	【第3回実行委員会】
		・引継ぎについての確認・今年の活動の案を各ブロックで仮決定
	24日	【第4回実行委員会】
		・サマースクール4日間の流れの説明・各活動のMT，STの決定
4月	8日	【附属特別支援学校挨拶】
	9日	【七飯町教育委員会挨拶】
		【北斗市教育委員会挨拶】
	10日	【八幡小学校挨拶】
	11日	【函館市教育委員会挨拶】
	14日	【参加者募集開始】
	15日	【第５回実行委員会】
		・活動案の作成，今後の予定についての確認
	16日	【七飯養護学校挨拶】
5月	9日	【第６回実行委員会】
		・学生ボランティア募集のポスターについて・音楽活動についての報告
	26日	【第7回実行委員会】
		・学生ボランティアについての確認・お弁当係からの報告
6月	2日	【参加者募集締め切り】
	3,4日	【授業周り】
	9日	【学生ボランティア募集開始】
	13日	【第８回実行委員会】
		・参加する子どもについて・個人ミーティング，全体説明会，教材作りについての確認
	20日～	【保護者説明会（動画配信）】
		・今年度のサマースクールの組織，実施内容，変更点の説明を行う
		・ブロックごとに活動案の内容を簡単に説明する
	24日	【学生ボランティア募集締め切り】
	25日	【市立函館高等学校　地域探求型学習講義】
		・障害種と特性について
		・子ども達との接し方について，参加に当たっての心得
	27日	【第９回実行委員会】
		・全体説明会の流れの確認
7日	1日	【全体説明会】
	4日	【第10回実行委員会】
		・個別ミーティング，教材作りについての確認
	5日，6日	【個別ミーティング】
	9日	【八幡小学校打ち合わせ①】
	11日	【教材作り①】
	18日	【第11回実行委員会】
		・八幡小学校との打ち合わせの報告・高校生ボランティアについての確認
		【教材作り②】
	22日	【ボランティア勉強会】
		・浜分小学校から南澤綾都先生を招き，子どもとの接し方や注意点についてのお話
	23日	【八幡小学校との打ち合わせ②】
	25日	【教材作り③】
	29日	【第12回実行委員会】
		・社会人ボランティア，縁日についての確認
8月	4日	【第13回実行委員会】
		・最終説明会，当日の動きの確認
		【最終説明会】
		・当日の集合時間や留意点の確認
	5日	【前日準備】
		・八幡小学校にて会場設営
	6日～9日	【Summer School 2025 in函館 開催】
	9日	【大掃除，復元】
		・八幡小学校にて会場の復元

17）実行委員会議事録

⑴第 1 回実行委員会

日　　時:2024 年 11 月 18 日(月)

参加人数:24 名

内　　容:実行委員長、副実行委員長の選出、ブロック振り分け。

⑵第 2 回実行委員会

日　　時:2024 年 12 月 6 日(金)

参加人数:21 名

内　　容:各ブロック統括、副統括の選出、各グループチーフ、サブチーフの選出、各係の担当者を決定。

⑶第 3 回実行委員会

日　　時:2024 年 1 月 16 日(木)

参加人数:22 名

内　　容:引継ぎについての確認、今年の活動の案を各ブロックで仮決定。

⑷第 4 回実行委員会

日　　時:2024 年1月 24 日(金)

参加人数:29 名

内　　容:サマースクール 4 日間の流れの説明、各活動の MT、ST の決定。

⑸第 5 回実行委員会

日　　時:2025 年 4 月 15 日(火)

参加人数:27 名

内　　容:活動案の作成、今後の予定についての確認。

⑹第 6 回実行委員会

日　　時:2025 年 5 月 9 日(金)

参加人数:26 名

内　　容:学生ボランティア募集のポスターについて、音楽活動についての報告。

⑺第 7 回実行委員会

日　　時:2025 年 5 月 25 日(月)

参加人数:26 名

内　　容:学生ボランティアについての確認、お弁当係からの報告。

⑻第 8 回実行委員会
日　　時:2025 年 6 月 13 日(金)
参加人数:26名
内　　容:参加する子どもについて、個人ミーティング、全体説明会、教材作りについての確認。

⑼第 9 回実行委員会
日　　時:2025 年 6 月 27 日(金)
参加人数:23 名
内　　容:全体説明会の流れの確認。

(10)第 10 回実行委員会
日　　時:2025 年 7 月 3 日(金)
参加人数:23 名
内　　容:個別ミーティング、教材作りについての確認。

(11)第 11回実行委員会
日　　時:2025 年 7 月 18 日(金)
参加人数:23 名
内　　容:八幡小学校との打ち合わせの報告、高校生ボランティアについての確認。

(12)第 12 回実行委員会
日　　時:2025 年 7 月 29 日(金)
参加人数:23 名
内　　容:社会人ボランティア、縁日についての確認。

(13)第 13 回実行委員会
日　　時:2025 年 8 月 4 日(金)
参加人数:23 名
内　　容:最終説明会、当日の動きの確認

※すべての会議を 14 講義室で行いました。

3. 各ブロックの概要

1）幼稚園ブロック

幼稚園ブロックは、児童 6 名、実行委員 6 名、学生ボランティア 12 名、社会人ボランティアの方々と活動を行いました。今年度は参加幼児が増えたこともあり、昨年度よりもとても賑やかに活動することができました。

1 日目は自己紹介の活動としゃぼん玉遊びをしました。自己紹介の活動では、自分の名前や好きなキャラクター、好きな色を紹介する活動を行いました。初日ということもあり、前にでて発表することが難しい子もいましたが、学生ボランティアのお姉さん、お兄さんと一緒に頑張って発表することができ楽しい活動となりました。また、しゃぼん玉遊びは、雨が少し降るなかでしたが、子どもたちが全力で走りまわり、しゃぼん玉を追いかける姿がとても印象的でした。

2 日目は室内遊びと製作活動をしました。予定では、こどもの国に行くはずでしたが、天候不良のため中止となってしまいました。室内遊びでは、新聞紙遊びや紙コップ遊び、ビニール袋で作ったふわふわドームで遊びました。子どもたちの楽しんでいる姿を見ることができて本当に嬉しく思いました。

3 日目はプール活動と体育館で運動会を行いました。プール活動では、容赦なく学生に水をかけ、楽しんでいる子どもたちの姿が見られました。なかには、プールに入ることに抵抗のある子もいましたが、ヨーヨー釣りやジュース屋さんなどの遊びを楽しむことができました。運動会は体育館で沢山のアダプテットスポーツを行いました。この日は体を動かす活動が多くありましたが、全力で楽しむことができました。

4 日目は校内全体で縁日を行いました。輪投げや釣りなどのゲームをしたり、わたあめやポップコーンを食べたりと沢山の思い出を作ることができたと思います。子どもたちも学生たちも笑顔で最終日を終えることができました。

今年度は全日日程となり、子どもたちや学生ボランティアの体調面を心配していましたが、1 日 1 日を全力で楽しみ、笑顔溢れる素敵なサマースクールになったと思います。今年度、参加してくれた児童のほとんどが年長さんのため、来年度はおねえさん、おにいさんになった姿を小学生ブロックで見れることを楽しみにしています。

最後になりますが、サマースクールに参加してくださったみなさん、本当にありがとうございました。サマースクールが素敵な夏の思い出となっていただけたら幸いです。みなさんのご協力がなければサマースクールは成り立ちません。本当にありがとうございました。

幼稚園ブロック統括：福田音羽（地域教育 4 年）

2) 小学生ブロック

今年度のサマースクール小学生ブロックは B グループ9名、C グループ9名の2つのグループで計18名の子どもたちが参加し、実行委員15名、学生ボランティア32名、高校生ボランティア4名、社会人ボランティア21名の計90名で4日間の活動を行いました。昨年よりもひとグループあたりの子どもの数が多いため、より活発で和気あいあいとした4日間を過ごすことができました。

1日目は午前に自己紹介を兼ねたグループ活動、廃材を用いた音楽活動、昼食後にめばり活動を行いました。グループ活動では子どもたちが学生とすぐに打ち解け合って制作やくす玉遊びに取り組んでいました。音楽活動では各々が廃材からでる面白い音はどれか、わくわくしながら鳴らして楽しみました。そしてめばり活動ではスポンジスタンプや霧吹きなどのアイテムに声を上げて興奮し、それぞれが思うように大胆に1枚の大きな布に彩りを加えていきました。

2日目は午前に水遊び、昼食後にクッキングを行いました。今年度は八幡小学校のプールを会場としてお借りし、そのなかでバルーンプールやシャボン玉、水風船を全員がずぶ濡れになって楽しみました。そしてお菓子パフェづくりを行ったクッキングでは、それぞれが好きなお菓子やトッピングを選び、装飾にもこだわって美味しさと楽しさを味わいました。

3日目は午前に外出活動、昼食後に制作活動を行いました。雨予報のなか、なんとか雨に当たることなく子どもたちの遊具ではしゃぐ姿や、大きな動物に驚き、興奮する姿を見ることができました。こどものくにから戻って昼食をとり、制作活動での紙コップロケットづくりをブロック全体で行いました。各々の好きな色でロケットの翼や窓を飾り付け、輪ゴムを用いて飛ぶロケットをつくり、用意された的や目標に向けて真剣に遊ぶ姿を見ることができました。

最終日の4日目は縁日を行いました。八幡小学校の各場所に制作やゲームのブースがあり、何度もかき氷をおかわりする子、制作遊びでお面や子犬カートづくりに熱中する子、アダプテッドスポーツでプラズマカーを乗りこなしている子など各々が好きなように夏の思い出を作っていました。最後となる帰りの会では、「また来年も参加したい！楽しかった！」と言う子たちばかりで、あっという間の4日間でしたが、この子どもたちの笑顔を目の当たりにして、頑張ってきてよかったなと報われた気がしました。この達成感はきっと私だけ感じたものではないはずです。

今年度はコロナ禍以降初となる子どもたちとの昼食、午後の活動といった活動時間や内容の拡大、さらに学生ボランティアも前年度の前半後半交代制から全員4日間参加となり、子どもたちと学生がともに過ごす時間が長く、多くの思い出ができ、濃い時間を過ごすなかでそれぞれ仲を深めることができました。帰り際の寂しがる子どもやまた来年も楽しみにしているという子ども、そして達成感や寂しさにきれいな涙を流す学生ボランティアの皆様を見て、私はとても充実感のあるかけがえのない4日間だったなと感じました。小学生ブロック90人それぞれの参加によって作りあげた4日間。笑顔や涙、忘れられない思い出の溢れるサマースクールとなりました。

最後になりますが、体力的に大きな負荷のあるなか、子どもに真摯に向き合って楽しい思い出をたくさん作って下さった学生ボランティアの皆様、円滑な運営や安全な活動のためお力添えをいただいた社会人ボランティアの皆様、その他サマースクール2025in 函館に関わって下さったすべての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

小学生ブロック統括：佐藤　虹太郎　（地域教育専攻3年）

3) 中・高校生ブロック

中・高校生ブロックは、中高生 9 名、実行委員 9 名、学生ボランティア 10 名と社会人ボランティアの方々と活動を行いました。今年度の中高生ブロックは D グループと E グループに分かれて活動を行いました。

1 日目は各グループでの活動やブロックでの活動、参加児童生徒が全員で行うめばり活動を行いました。グループでの活動では、絵しりとりや星人鬼ごっこを行いました。ブロックでの活動ではロケットストローを作成し、自分のつくったロケットストローで的当てゲームをしました。サマースクール初日で緊張感がありましたが、活動を通して緊張がほぐれ、楽しんで活動する様子が見られました。

2 日目は中・高校生ブロックで、はこだてみらい館に行きました。期間限定イベントなども催されており、子どもたちの楽しむ様子が見られました。午後からはコースターづくりを行いました。学生ボランティアと協力しながら、素敵なコースターが完成しました。

3 日目は、アダプテッドスポーツや音楽活動、クッキングを行いました。体育館で様々なスポーツを体験しながら汗を流したり、音楽活動ではいろいろな音と触れ合ったり、クッキングでは自分なりにパフェをデコレーションするなど、体も頭もたくさん使って楽しみました。

4 日目は学校内全体を使った縁日を行いました。輪投げやモグラたたきなど、様々な体験型のブースや、ポップコーンやかき氷、綿飴などの飲食スペース、アダプテッドスポーツ等、学生ボランティアと子どもたちが興味のあるブースに足を運びました。子どもたちと学生ボランティアの笑顔と、別れを惜しむ涙であふれたサマースクール4日目でした。

今年度のサマースクールは全日日程となり、長時間にわたる活動となりました。大変暑い中、子どもたちや学生ボランティア、社会人ボランティアの皆様にご負担をおかけした点も多々あるかと思います。本当にありがとうございました。

「また来年。」子どもたちのその言葉にサマースクールの意味があり、私たちはそれに応えていかなければいけないと思います。中・高校生ブロックに参加してくれる子どもたちにとって残り数回となるサマースクール、高校 3 年生の子にとっては最後のサマースクールとなります。私たちはその貴重な 1 回を最高の思い出にしてもらいたいと思っています。中・高校生ブロックは今後も様々な活動を考え、子どもたちに「また来年。」と言ってもらえるようなサマースクールを目指して頑張っていきます。

サマースクールに参加してくださったみなさん、参加していただきありがとうございました。サマースクールは楽しんでいただけましたでしょうか。参加してよかったと感じていただけていれば幸いです。みなさんのご協力がなければサマースクールは成り立ちませんでした。本当にありがとうございました。

中学・高校生ブロック統括：久保田　幸（地域教育専攻 3 年）

4. サマースクール活動紹介

1）幼稚園ブロック

幼稚園ブロック　自己紹介・しゃぼん玉遊び

サマースクール 2025 幼稚園ブロック 1 日目は、「自己紹介」と「しゃぼん玉遊び」を行いました。1 日目ということで、子どもたちや学生には緊張している様子もありましたが、1 日を通して互いに仲を深める様子が見られました。

「自己紹介」では、子どもたちの好きなキャラクターが書かれた紙に、子どもたちそれぞれが、名前・好きな色・好きな食べ物を記入して発表しました。キャラクターは、早く書き終わった子や、書く気が起きない子も楽しめるように、モノクロで大きめに印刷し、ぬり絵になるようにしました。また幼稚園ブロックということで、文字を書いたり抽象的な質問に答えたりする力にはバラつきがあるため、名前の欄は空白のものと、なぞり書きができるものを用意し、好きな色は絵で選択肢を用意して、好きな食べ物は文字で書いても絵で描いてもよいことにしました。発表は、得意な子は前に出て、苦手な子は自分の席で担当の学生と一緒に行いました。このとき、「お名前は何ですか？」などと一つずつ聞いたり、手をマイクのようにして子どもに向けたりしてインタビューのように聞くと、子どもたちは答えやすい様子でした。

「しゃぼん玉遊び」では、外（学校の玄関前）に出て、しゃぼん玉を作って遊びました。大きなしゃぼん玉ができるものや、小さなしゃぼん玉がたくさんできるものなど、たくさんの道具を用意しましたが、子どもたちに一番人気だったのは、銃のような形で、引き金を引くと勢いよくたくさんのしゃぼん玉が出てくる、バブルガンでした。子どもたちはバブルガンを武器に見立て、学生と一緒に戦いごっこをして楽しんでいました。また初めは遊ぼうとしなかったものの、他の子どもたちや学生が遊ぶ様子を見てしゃぼん玉作りに挑戦し、最終的にはとても上手にしゃぼん玉を作れるようになった子もいました。反省点としては、手が汚れるからやりたくないという子がおり、その子は室内での遊びに切り替えたのですが、他の子どもたちや学生が遊んでいるところを見せ、試しに一度、しゃぼん玉を子ども自身に作らせてみた後に、室内での遊びに切り替えてもよかったのではないかと思います。

しゃぼん玉遊びをするにあたり予報では天候に不安がありましたが、天候は荒れずむしろ丁度良い気温で遊ぶことができたと思います。水分補給やトイレの声かけをこまめに行い、怪我などもなく安全に活動することができました。来年度以降も、子どもたちが安全に全力で楽しめる活動を企画・実行していってほしいと思います。

最後になりますが、無事に活動を終えることができたのは、子どもと一緒になって全力で遊んでくれた学生ボランティアの方々、準備や片付けをはじめとし子どもたちのために考え動いてくださった実行委員会・社会人ボランティアの方々、その他幼稚園ブロックの活動に関わってくださった全ての皆様のおかげです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

担当：山口　水緒（地域教育 4 年）

幼稚園ブロック　室内遊び

サマースクール 2025 幼稚園ブロック 2 日目の午前中は、本来ではこどものくにへ外出活動に行く予定を立てておりましたが、今回は生憎の雨天のため、活動している教室内での室内遊びに変更となりました。今回の室内遊びでは、新聞紙・紙コップあそびをしました。教室内に様々なブースを作り、子どもたちの自由な発想に期待し、多くの新聞紙を使い、好きなように遊んでもらいました。室内には、兜や紙鉄砲を折って遊べる折り紙スペース、ドアのところにすずらんテープを伸ばし、そこに新聞紙をかけて作った新聞紙カーテンスペース、ブルーシートとビニール袋で作ったビニールハウスに新聞紙をちりばめた新聞紙ハウス、紙コップを自由に重ねたり転がしたりする紙コップスペースを設けました。

活動の最初は、新聞紙教室を作るのに少し時間が必要だったため、子どもたちは学校探検をしました。学校探検では、広場で、MT が青のカードを掲げたら走る、黄色だったらゆっくり歩く、赤だったら止まるという「信号ゲーム」を行いました。幼稚園児には少しルールが難しいゲームではありましたが、楽しく活動してくれました。また、その他の時間でもこどもが廊下を走ってしまったときに学生ボランティアが「黄色信号だよ！」と伝えると、「あっ」と気づいて走るのをやめる子がいるなど、ゲームの効果が見られ、嬉しく思いました。

新聞紙教室の、折り紙スペースでは、兜だけでなく新聞紙で全身の鎧を作ったり、ドレスを作ったり、武器を作ったり、学生ボランティアと協力して楽しく遊んでいる様子が見られました。カーテンスペースでは、誰にも見えないところで一休みをしたい幼児やかくれんぼをする幼児がいました。新聞紙ハウスでは、新聞紙をちぎってばらばらにしたり、扇風機の風に乗せて舞い上がらせてみたり、中で飛んだりする様子が見られました。紙コップスペースでは、一息つきたい子やゆっくり自分のペースで遊びたい子に人気でした。積みあげて紙コップタワーにしたり、穴をあけてみたり切ってみたりテープでつないでみたり、自由な発想で遊ぶ様子が見られました。

反省点としては、新聞紙を触ると汚れるからやりたくないという子に対しての対応と、時間が長く、終盤には飽きてしまった子がいた点です。新聞紙だけではなくチラシで代用することや、途中でゲーム性のある活動を入れるなどの工夫が必要だったと感じています。

外出活動には行けず、悔しい思いもありましたが、学校探検から戻ってきた子供たちが嬉しそうにビニールハウスへ飛び込んでいく姿を見て、その笑顔のために頑張ってきて良かったと感じることができました。

準備時間を含め、活動を進めるにあたり、参加していただいた皆様のご協力のおかげで子どもたちが楽しく活動することができました。本当にありがとうございました。来年度も子どもたちが全力で楽しめる活動を企画していきたいと思います。

担当：島貫　瑛陽（地域教育3年）

幼稚園ブロック　製作遊び

幼稚園ブロック2日目の午後の活動は、製作あそびとして、「保護者の方へのメッセージカード」と、「アイスクリームけん玉」の2種類の制作を行いました。子どもたちは、担当の学生と一緒に楽しみながらも真剣に制作に取り組む姿が見られました。今回の活動では、幼児でも分かりやすく、楽しめるように、写真付きの作成ガイドを一人一枚ずつ配布し、学生と一緒に確認しながら進める方法を取りました。また、事前に子どもたちの好きな色を聞き、複数の色画用紙を用意したことで、子どもたちは自分の好きな色を選んで製作を楽しむことができました。二種類の製作を用意したことで、活動に変化が生まれ、より楽しめたのではないかと感じています。今回の経験を通して、子どもが楽しめる適切な難易度に活動を調整することの大切さを改めて感じました。

メッセージカードづくりでは、スタンプがハートの形に見えるメッセージカードを、保護者の方への感謝の気持ちを込めた作品として制作しました。土台の白い画用紙いっぱいに水性インクで指スタンプを押します。手が汚れることを苦手とする子は、メラミンスポンジや段ボールなどを使用しました。その上から、ハート型にくりぬいた縁となる画用紙を重ね、自由にデコレーションを行いました。子どもによってスタンプの重ね方、色遣いなどが異なり、個性が現れていました。デコレーションでは「だいすき」「ありがとう」などのメッセージを書いたり、好きなシールを貼ったりと、子どもたちは楽しそうに一生懸命作っていました。中には、猫が好きな子が、画用紙に猫耳をつけるという工夫も見られました。普段は文字を書くことが少ないという子が、学生の見本を見ながら一生懸命に文字を書いている様子も印象的でした。保護者の方もメッセージカードを子供から受け取り、喜んでくださったようで、子どもたちにとっても達成感のある活動になったと思います。

２つ目の制作は、少し難易度を上げたアイスクリームけん玉を作りました。コーンの部分は半円の画用紙にコーンの模様を描き、円錐の形になるように丸めて作成しました。アイスクリームの部分は新聞紙と折り紙で形を作り、紐でコーンとつなげました。やや難しい工程もありましたが、学生と協力しながら一生懸命作る姿が見られました。コーンの模様やアイスの色、シールの使い方等にも個性があふれており、子どもたちの発想の豊かさを感じました。完成後は、自分で作ったけん玉で遊ぶ姿も見られ、自分で作って遊べる喜びを味わうことができた活動になったと感じます。

最後になりますが、参加してくださった子どもたち・保護者の皆様、子どもたちと全力で関わってくれた学生ボランティアの方々、準備から当日まで子供たちのために考え協力してくださった実行委員・社会人ボランティアの方々、その他幼稚園ブロックに関わってくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

担当：南部　月渚（地域教育専攻2年）

幼稚園ブロック　水遊び

幼稚園ブロック3日目の活動は、八幡小学校のプール内に、空気で膨らます滑り台と組み立て式のプールを設置し、それ以外にも、ヨーヨー釣り、絵の具を混ぜて作るジュース屋さんを行いました。

初めての午後までの活動ということと、水遊びが終わった後にアダプテッドスポーツを予定していること、活動終わりからお昼ご飯を食べるまでの時間が余りすぎていることから、制作活動や絵本の読み聞かせ等の落ち着いた活動を増やすのはどうかと社会人ボランティアの方からアドバイスを頂いたので、水遊びを開始する前に子どもたちにプールで遊べるペットボトルのシャワーを作ってもらいました。制作活動が終わった後に、プールでのルールの説明と準備体操を行いました。ルール説明の際は、走らないことと順番を守ることを強調して伝えました。

子ども同士で遊ぶ場面は見られませんでしたが、学生ボランティアと楽しく遊んでいる様子が見られました。ヨーヨー釣りでは釣り竿で難易度が変わるように準備していたので、学生ボランティアに手伝ってもらいながら自分に適した難易度で釣りをして遊ぶ様子が見られました。ジュース屋さんでは、用意していたメニュー通りに作る子どももいれば自分で色を混ぜてオリジナルのジュースを作って遊ぶ子どももいて予想以上に楽しんでいる様子が見られて良かったです。この2つの活動は体を激しく動かす活動ではないので、子どもたちが休憩もかねて遊ぶことができていたのではないかと感じました。

反省点としては、子どもたちにルールを守ってもらうことが出来なかったこと、活動に参加しない子ども用の対策が不十分だったこと、学生ボランティアの体調を気にすることができなかったことが挙げられます。ルールについてはプール内での具体的な場面や写真を交えながら、子どもが具体的に想像しやすいように説明する必要があったのではないかと考えています。活動に参加しない子ども用の対策については、ヨーヨー釣りには興味をもって取り組んでいたので、水に触れなくてもできる遊びをもっと用意することや、教室に戻ってもできる水遊びなどを用意しておくべきだったと考えています。学生ボランティアの体調については、水分補給やトイレの呼びかけを行っていましたが、プール内の温度が外よりも高かったので、外で休憩するように促す必要があったのではないかと考えています。

昨年度と変更された点が多い中で、自分の考えが及ばない点も多々ありましたが、子どもたちが楽しく遊べる場所を提供することができたのは、参加してくださった皆様のご支援・ご協力のおかげです。本当にありがとうございました。来年度もこの反省を活かしてより良い活動を考えていきたいと思います。

担当：小笠原理心　（地域教育３年）

2) 小学生ブロック

B グループ

今年度のサマースクールの自己紹介活動は「なりたい姿に変身！！！　お面づくり活動☆」でした。個別ミーティングで子ども達の好きな動物やキャラクターについて聞き、その情報を基に当日切り取った数枚の塗り絵と台紙を渡して塗り絵を行いました。その後、子ども達が完成させたものと教材づくりの時間で学生ボランティアと作製した頭に着ける部分のものとくっつけ、同じものを作ってきたペアの学生ボランティアとお互いに自分の好きなものについて紹介する活動を行いました。

当日の活動の様子として、子ども達はとても楽しんでくれて、シールを貼ることや余白部分に絵を書いてより良いお面を作ってくれました。学生ボランティアと一緒にお面をかぶって自己紹介をしていたりいい笑顔で写真を撮っていたりして嬉しい気持ちになりました。その後の活動に着けていく子どももいて気に入ったものを作り喜んでもらえて本当に良かったと思いました。子どもによってしたいことや活動の進度に個人差があり進行が難しかったですが、学生ボランティアの協力のおかげでスムーズに子ども達がそれぞれやりたい活動を柔軟に行うことができたと思います。また、サマースクールの１日目ということもあり、子ども達も学生ボランティアも緊張している様子が最初は見られましたが、活動を通して徐々に打ち解けあっていくことができ良い活動になりました。

今回の活動の反省としては子ども達がもっと活動に没頭することのできる環境づくりを十分に行うことができなかったことです。子ども達が使いたい色やペンの準備ができていなかったり、塗り絵を進めることだけでなく道具を置くにしては机の大きさや数が不十分であったりと改善点が多く見つかりました。また、活動の大まかな工程としては説明、塗り絵、写真撮影の3つでしたが、一つ一つの活動の切り替えにメリハリをつけられず、同時に始めることができなかったことや全体写真を撮れなかったことなど自分の指示の仕方が子供に伝わりづらかったことや活動案で余裕を持たせられなかったことが自分の今後の課題だと思いました。

今回サマースクールを運営する立場に回って、去年とは全く異なる体験をすることができたと思います。子ども達が楽しんで活動をするにはどのような企画や工夫がよいのかを考えることはとても難しく、最高の状態に仕上げたつもりでしたが多くの改善点が本番でも見つかり悔しかったです。

最後になりますが、サマースクールに携わってくださった皆様の支えがあったからこそ子ども達の笑顔を見ることができました。誰か一人かけていたらこのような感動を得ることはできなかったと思います。本当にありがとうございました。

担当：髙橋侃太郎（地域教育専攻2年）

Ｃグループ

サマースクール2025の小学生ブロックＣグループでは、子どもたちと、実行委員会（以下実委）と学生ボランティア（以下学ボ）、社会人ボランティア（以下社ボ）の皆さんで活動しました。

１日目はＣグループの活動である「中身は何かな？くす玉チャレンジ」という活動を行いました。この活動は、個別ミーティングの際に、参加する子どもの好きな物やキャラクター、テレビ番組などの情報を調べ、それに基づいた簡単なパズルを製作し、金色のくす玉の中に入れて、活動時にみんなでそのくす玉を割り、パズルの組み立てを子どもと学ボのみんなでやってもらうという活動です。この活動の良かったところは、まず、子どもと学ボが面と面で向かい合って行う活動というところです。今回のサマースクールは、子ども1人につき学ボが約2人付いたので、1人がくす玉の紐を持つ役、もう1人がその横にしゃがみ、様子見役として活躍してくれました。自然と子どもとの目線が合うことで、信頼関係を築ける活動になったのではないかと思います。

２日目は小学生ブロックで午前中にプールを使った水遊びと、午後はクッキング活動を行いました。当日は強い雨が降っており、小学校本館からプールに移動する際は大変でしたが、子ども達はお構いなしにイカの形をしたミニ噴水やシャボン玉鉄砲、プール用遊具などで楽しんでいる様子がうかがえました。午後のクッキングでは子どもと学ボでおかしパフェを作りました。子どもたちが自分の好みに合わせてパフェをカスタマイズして食べたり、学ボのために作ってあげたりなど、とても和やかな活動になったと思います。

３日目は、外出活動と制作活動を行いました。外出活動では子どもの国に行きました。子どもの国では、好きな乗り物に乗ることができ、それぞれお気に入りの乗り物に乗って楽しそうにしていました。3日目ということもあり、学ボとも打ち解けていました。午後の製作活動では、紙コップでロケットを作りました。慣れない手つきで頑張る子ども達の様子がうかがえました。無事完成し、ロケットを飛ばした所で点数がつけられるゲームを行いました。どう飛ばせば高く、遠くに飛ばすことが出来るかを子どもと学ボで考えながら導き出す瞬間を見ることができました。

４日目最終日は午前中のみで縁日を行いました。お面作りやアダプテットスポーツなど学校の中にたくさんの遊び場所や企画がありました。学ボと子どものペアで遊びに来ることもあれば、子どもと親御さんで遊びに来たりもして、最終日に思いっきり楽しんでいる子どもたちの様子がうかがえました。

自分がチーフとしてサマースクールに参加してみて、自分の知識不足、力不足、経験不足を多くの面で痛感しました。不甲斐ない自分でしたが、実委の皆さんや学ボや社ボの皆さん、先生方、多くの方々の協力があり、今回のサマースクールを無事終えられたと思います。関わっていただいた全ての方に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

担当：小泉　颯大　（地域教育専攻２年）

小学生ブロック　水遊び

小学生ブロックでの水遊びの活動は、前年度とは違い、小学校のプールをお借りして行う活動でした。そのため、プールの配置の見直しや、どのような活動を行うのかを考えることが難しく、当日になるまで不安でした。

今年の水遊びの活動では、プール活動、水風船、シャボン玉の主に3つの活動を行いました。プール活動は、大きなプールと滑り台付きのバルーンプールを設置し、カプセルにおはじきを入れたお宝と、ペットボトルで作られた水鉄砲を大きなプールの中にいれ、お宝を探したり、水をかけ合ったりなど、自由にプールの中で遊ぶ活動を行いました。水風船の活動は、床に投げたり、学生と投げ合って遊んだりするという活動です。シャボン玉の活動は、学生が手作りしたバブルリングや、シャボン玉がたくさん出るおもちゃを使い、自由にシャボン玉を作るという活動です。その他にも、中央に水が出るたこのおもちゃを設置し、様々な活動ができるようにしました。

水遊び活動は、床が滑りやすくなったり、溺れる可能性があったりと、細心の注意を払って行わなければならない活動であったため、当日まで、子どもたちの怪我や事故の防止、活動を何事もなく行えるか、子どもたちはこの活動を楽しんでくれるのかなど、考えることが多く不安でした。当日は雨が降っていましたが、小学校のプールを借り、その中での活動であったため、幸い雨の中でも活動を行うことができました。当日の朝、水遊びの活動の準備をしながら本当にこれで大丈夫なのか、今からでも何かした方がよいのではないかなど、頭の中が不安でいっぱいでした。水遊びの活動の説明をするために集まったとき、水遊びを楽しみにしてくれて、家から水鉄砲を持ってきていた子どもや、「早く説明して早くいきたい」と話している子どもがいるのを見て、とてもうれしく、思いきり楽しんでもらいたいと思いました。活動では、子どもたちが笑顔で学生たちと水をかけ合ったり、シャボン玉をたくさん出して遊んでいたり、水風船を投げ合っている姿を多く見ることができました。活動の中で心配だった着替えについても、時間ごとに分けて行うことで、スムーズに行うことができました。活動は子どもたちの笑顔に溢れていて、本当に頑張ってよかったと感じました。しかし、活動を行うことで見つかった課題もありました。雨の中で、大きな音が出ており、指示の声が通らなかったこと、たこのおもちゃの水の勢いが変わり、強い勢いで水が顔にかかってしまったり、シャボン液で床が滑りやすくなってしまったりしたこと、宝物のカプセルが水の中に沈まなかったこと、シャボン玉がプールの中に入ってしまいそうになったり、子どもの顔の前で破裂して、シャボン液が目に入ってしまいそうになったりしたことなど、初めての活動の中で知った多くの課題があり、事前の準備や、当日の動きの説明のときの付け足しなどが必要になると感じました。

活動を終え、子どもたちが笑顔で「楽しかった！」や「もう終わり？」などと言ってもらえた時、子どもたちが笑顔で活動をしている姿が見られたとき、自分も楽しみながら活動ができたとき、本当に今まで頑張ってきてよかったと思いました。

最後になりますが、小学生ブロック水遊び活動に協力してくださった学生・社会人ボランティアの方々、関わってくださった皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

担当：佐々木大世（地域教育２年）

小学生ブロック　クッキング活動

小学生ブロックでは、8月7日（木）の午後にクッキング活動を実施しました。火を使わずに安全に、かつ子どもたちが楽しく参加できる活動は何かを試行錯誤し、最終的に「おかしパフェ」を作ることに決定しました。子どもたちが自分でトッピングを選びながら作る楽しさを味わえるよう、カラフルで形や食感の異なるお菓子をそろえ、見た目にも楽しいパフェづくりを目指しました。

その一方で、活動人数が多く、一度に家庭科室で行うことが難しかったため、1時間の活動を前半・後半の2グループに分けて実施しました。私はメインチーフとして2つの活動場所を行き来し、進行を担当しました。限られた時間の中で慌ただしい場面もありましたが、サブチーフをはじめ、実行委員、社会人ボランティア、学生ボランティアの方々の協力のおかげで、どちらのグループも円滑に活動を進めることができました。

活動にあたっては、活動の流れを視覚的に示すために、イラスト入りのスケジュール表を作成し、次に何をするのかを一目で理解できるようにしたことで、子どもたちが安心して活動に取り組めるようになりました。さらに、トッピングを一覧にした「メニュー表」を用意し、どんな材料があるのかをわかりやすくすることで、選ぶことが難しい子どもも自分のペースで参加できるよう工夫しました。また、待っているグループや早く食べ終わった子どもにはパフェの塗り絵を渡し、活動の合間も楽しめるようにしました。

事前の個別ミーティングでは、「甘いものが苦手」という子どももおり、さらに昼食後の活動だったため食欲についての問題が心配されました。しかし当日は、全員が笑顔で参加し、自分で選んだトッピングを楽しそうにのせて、おいしそうに食べている姿が見られました。その中で、「もう終わり？」、「まだやりたい！」と言ってくれる子どもたちの姿が印象に残っています。また、自分の担当の学生ボランティアのためにパフェを作ってあげる子どもの姿もあり、優しさや思いやりを感じて心が温かくなりました。活動を心から楽しんでくれたことが伝わり、この活動を企画して本当によかったと感じました。

今回のクッキング活動を通して、子どもたちは自分で作る喜びや誰かのために作ることの楽しさを感じてくれたと思います。そして私自身も、子どもたちが安心して笑顔で取り組める活動を実現するためには、周囲との連携や丁寧な準備が大切であることを学びました。サマースクールは、私たち実行委員だけでは成り立たず、ボランティアの方々や多くの方々の支えがあってこそ成り立つものだと実感しました。参加してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

担当：山田　陽菜（地域教育専攻2年）

小学生ブロック　外出活動

今年度のサマースクールの小学生ブロックの3日目に「函館公園こどものくに」で外出活動を行いました。今回の外出先として、「函館公園こどものくに」の他に「道南四季の杜公園」が候補に挙がりました。この二つの外出先の両方を見学しに行き、施設の方々の話を聞いて、施設の大きさや、使用できる設備の場所などを考慮し、今回の活動では、「函館公園こどものくに」を外出活動先としました。

「函館公園こどものくに」では、250 円×2でそれぞれの乗りたい乗り物に乗ることができる団体プランを利用して遊具で遊びました。函館公園には動物施設もあり、無料で見ることができるため、時間を区切らずに、動物施設とこどものくにを行き来できるよう計画しました。子どもたちが指定された範囲から出てしまうことを防ぐために、こどものくに内にある入り口に実委、子どもたちがトイレに行きたくなった時に補助に入れるように公園内の指定したトイレに社会人ボランティアに立っていてもらいました。朝の会で子どもたちにクエストカードを渡し、遊具に乗ることや集合時間内に戻ることなどのクエストを達成することができればシールを貼ることができるようにしていました。バスの中ではレクなどは行わず、子どもたちと学生ボランティアが自由に交流できる時間にしました。このとき、学校に残っているグループでは、それぞれ「こどものくに」にある新幹線や観覧車などの乗り物の塗り絵を行いました。子どもたちは、ただ塗り絵を塗るだけではなく、「ありがとう」や「楽しかった」などと書いており、自分の言葉で感謝を表している様子や実際に乗った遊具に似せたイラストを描き加えたりしている様子が見られ、楽しんでくれたことが伝わってきました。これらの塗り絵は、「函館公園こどものくに」への感謝状に使用しました。

当日は、雨の予報が出ており、外出活動に行けるのかとても心配でした。ですが雨が降らず、無事に行くことができました。そして子どもたちが学ボとコミュニケーションをとりながら様々な遊具に乗ったり、動物を見たりするなどの楽しむ姿を見ることができ、外出活動に行くことができて本当に良かったと感じました。

外出活動は、学校の外で行う活動であるため、外部の方々と連絡を取ったり、色々な場合や危険を想定して活動案を作成したりするなど、計画するにあたって「人との関わり」がより重要であった活動であったように思います。そのため、今回のサマースクールでの活動を通して、活動はたくさんの方々の協力があってこそ成り立っていることを実感しました。参加してくださった皆様、そしてサマースクールに関わってくださった多くの方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

担当：斉藤佑依（地域教育専攻2年）

小学生ブロック　製作活動

3 日目の午後、小学生ブロックは制作活動で 2 種類のロケット作りを行いました。具体的な活動内容としては、紙コップとトイレットペーパーの芯の 2 種類の素材を使ったロケットを製作するというもので、子どもたちには、主にロケットに窓や羽などのパーツをつけたり、絵やシールで飾り付けをしたりしてもらいました。作った後には、ロケットを飛ばして当てるための的や、ロケットを飛ばしてシールを集めるスタンプカードなどを用意したことで、自分で作ったもので遊ぶところまで楽しんでもらうことができました。

実際の活動では、怪我をしてしまう危険性を考慮し、子どもがはさみを使わないで済むよう、紙コップに切り込みを入れたり、飾りつけのパーツを切っておいたりするなどの準備をしました。また、作ったロケットを飛ばして他の子どもにあたってしまうといったトラブルを防止するために、製作場所と飛ばして遊ぶ場所を分け、机の上で飛ばさないことを示したカードを用意し提示しました。そうしたことで、怪我もなく、安全に活動することができました。子どもたちは好きな色のパーツをつけたり、絵を描いたり、シールを貼ったりして、思い思いのロケットを作り上げており、飛ばして遊ぶときも何度も挑戦し、上手に飛んだら盛り上がる姿を見ることができました。また、集団での活動が苦手で、活動の実施場所である八幡ホールに集まることができなかった子どもも、グループ活動の場所などでロケット作りをすることができ、場所は違ってもみんなと同じ活動をすることができました。

準備段階では、「楽しめる活動」と、「安全に実施できる活動」の 2 つを両立させるのに苦労し、どうしても制限が多くなってしまう中で子どもたちに楽しんでもらえるのか不安でした。しかし、子どもたちはとても楽しそうに活動に参加しており、たくさんの笑顔が見られました。特に、次の日に子どもから「ロケットのお姉さんだ！楽しかったよ！」とかけられた言葉が印象的で、子どもたちが楽しんでくれたことに安心しました。一方で、活動中に子どもが「もっとこうしたい」と伝えてくれても、はさみを渡すことができないので実現することが難しく、「いいよ」と言ってあげられなかったのが心残りだったので、来年以降は臨機応変に対応できるような工夫ができればよいと感じました。

最後になりますが、子どものサポートをするだけではなく、一緒になって全力で楽しんでくれた学生ボランティアの方々、様々な準備や片付け、円滑な活動の進行のために動いてくださった実行委員会・社会人ボランティアの方々、その他活動に関わってくださった全ての方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

担当：佐々木　来海（地域教育専攻 2 年）

3）中高生ブロック

D グループ

中高生ブロックグループ活動は、サマースクール 1 日目に行いました。主な活動内容としては、「絵しりとり」と「星人鬼ごっこ」のアクティビティ 2 つを行い、「星人鬼ごっこ」では E グループと合同で行いました。これらの活動内容や教材は、子供たちが学生ボランティアに慣れる、仲を深める、という目的を念頭に置きながら設定しました。その際、遊ぶルールをどのように説明すれば子供たちに伝わるのかを考えることがとても難しかったです。

「絵しりとり」では、「学生ボランティアと子供がペアになり、どれだけ絵をつなげていくことができるかを競う」というルールを設定しました。その際、絵を描くことに抵抗があるか、苦手かどうかを個別ミーティングの際に保護者の方と確認し、子供みんなが楽しめるよう、絵カードをあらかじめ準備しておくことにしました。これによって、「絵しりとりでは、自分で描いても、絵カードを使用しても良い」という選択肢を加えることや、子供たちが学生ボランティアと関わることができる機会を設けることができたと思います。活動した際、絵を描いてしりとりしている子や絵カードのみを使う子、絵を描き、カードも使用する子、など自分に合ったやり方で絵しりとりをしている様子が見られました。「絵が描けない」と悩んでいた子も見られましたが、「この絵カードはどうかな？」など、学生ボランティアと、コミュニケーションをとりながら、楽しく活動している姿が見られました。

「星人鬼ごっこ」は、E グループと合同で行いました。この活動では「星人カード」というカードを首から下げ、はじめは学生ボランティアと子供がペアになり、D グループで 2 組、E グループで 3 組の仲間にしたうえではじめました。遊びのルールとしては、「一人一人がばらばらに歩き回り、自分と違うカードを持つ人とじゃんけんをし、自分と同じカードを持つ仲間を増やしていく。仲間が多いチームが勝つ」というものにしました。このゲームを実施するために、私たちは保護者ミーティングで体を動かしたり人と接触したりする際の留意点を確認しました。そのうえで改めてルールを見直し、「鬼ごっこではあるが、子供たちがぶつからないように歩く」という点を加え、活動前に学生ボランティアの方とルールの共有を行いました。活動してみて、子供たちが E グループの子や友達、学生ボランティアの方と積極的にじゃんけんしている様子が見られ、コミュニケーションをとっている様子も見られました。

学生ボランティアの皆さんには当日の活動だけでなく、教材準備の際にも積極的に作業を進めていただきました。そしてサマースクール当日、分からないことや困ったことがあったら聞きに来てくださったおかげで、グループ全体で確認する必要がある情報を共有することができました。活動中は子供たちの表情や行動をよく見て、あらゆる面でサポートしていただきました。皆さんのおかげで子供たちが楽しく活動している様子を見ることができました。活動を通して、子供たちと学生ボランティアとの仲を深めるきっかけにすることができ、4 日間のサマースクールを行ううえでとても良いスタートを切ることができたと思います。ありがとうございました。

担当：村上　叶（地域教育専攻 2 年）

Ｅグループ

中高生ブロック Ｅ グループのグループ活動では、2つの活動を行いました。1つ目は絵しりとりです。絵しりとりは、スタートの絵が描いてある画用紙を子どもに1人1枚渡して、その絵に続くようにそれぞれ絵をつなげ、最後にどうつなげられたか発表してもらうという形で行いました。絵カードを用意しておいて絵が苦手な子どもには、絵カードを活用してもらい、絵を描かなくても楽しめるように工夫しました。実際に活動してみて良かった点は、グループ内でのコミュニケーションが活発に行われていたということです。子どもとその担当の学生がしりとりのつなぎ方について相談していたり、他の子の絵しりとりを見て「すごい。これは何の絵？」などと子ども同士で感想を言い合ったりする様子が見られました。グループ活動は、今年度のサマースクール最初の活動だったため、場の空気を柔らかくするべくグループ内での対話が多くなるような活動を行いたいと考えており、ねらい通り多くの対話が見られ子どもたちの緊張をほぐすことができました。しかし、反省点もありました。それは、子どもにわかりづらい絵カードを用意してしまったという点です。できるだけ絵カードだけでつながるようにカードを用意していたのですが、子どもになじみのない絵もあり、何の絵か分からず詰まってしまう場面もありました。そういった場合には学生が声をかけて、他の絵を一緒に考え、子どもが描きやすいよう誘導したり、他の絵カードに注目させたりして柔軟に対応することができましたが、子ども目線でより吟味して教材を作らなくてはいけないと思いました。2つ目は、星人鬼ごっこです。星人鬼ごっこは、子どもたちを5つのチームに分け、出会った人とじゃんけんをしてもらい、チームの仲間を増やしていくというものです。じゃんけんで負けた人は勝った人のチームになります。誰がどのチームにいるか分かりやすいようにめくって入れ替えられるチームカードを全員に配布して行いました。良かった点は、子どもたちが終始笑顔で動き回り活動場所が明るくにぎやかになったことです。星人鬼ごっこは、D グループと合同で行ったため緊張して他の人に声をかけられず、活動がスムーズに進まない子もいるのではないかと最初は不安もありました。しかし、ルール上、出会った人と必ずじゃんけんをしなくてはいけないため、相手が偏ることもなくゲームを楽しみながらフラットに関わり合うことができていました。結果発表時には自分のチームの優勝を全力で祈ったり終わった後もチームのカードを保管し、リュックに付けて帰ったりする子が見られ、子どもたちの心にこの活動が残っていてくれたことがうれしかったです。これらの活動での学びを今後に活かしていきたいと思います。

最後に、活動に関わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。実行委員の先輩方には活動を考える上でたくさんの相談に乗っていただきました。学生ボランティアの皆さんは教材づくりでは常に子どものことを考えながら真剣に取り組み、当日は子どもとともに楽しみながら温かく活動を支えてくださいました。本当にありがとうございました。

担当：石手洗　日菜（地域教育専攻2年）

中学・高校生ブロック　製作活動

２日目の午後、中・高生ブロックは製作活動でコースター作りを行いました。具体的な活動内容としては、子どもたちが好きな位置にガラスタイルを並べたコースターの土台に、セメントと水を混ぜたものを流し入れ、表面を整える、というものです。作成後にセメントを乾燥させる必要があったため、1日学校で預かり、次の日に子ども達に持ち帰ってもらいました。

事前に子どもたちの好きな色を聞いていたことで、当日はスムーズにそれぞれの子どもが好きな色のガラスタイルを配ることができました。また、手順が多い活動であったため、実際に作っている写真付きの手順書を用意しました。子どもたちがそれぞれのペースで、学生ボランティアとともに完成までスムーズに進めることができ、効果的であったと感じました。

実際の活動では、配られたガラスタイルを全て散りばめて柄を作ったり、左右対称にガラスタイルを並べて柄を作ったり、コースターの外周に沿ってガラスタイルを並べたりと、一人一人が全く異なる作品を作り上げることができました。子どもたちの個性がそれぞれの作品に現れやすい活動だったこともあり、とても楽しい活動になったのではないかと思います。

セメントを乾かす必要があったため、作成した当日に持ち帰ることができませんでしたが、子どもたちが「早く持ち帰って家族に見せたい」と言っており、子どもたちにとっても満足のできる活動になったのではないかと感じました。また、「手順書を持ち帰ってお母さんに見せたい！」と笑顔で手順書を持ち帰る子どももいて、子どもにとって「保護者に伝えたい」と思える、印象に残る活動を行うことができたのではないかと思います。

コースター作りは初めて行う活動で、子どもたちが楽しみながら行えるかとても不安でしたが、子どもたち全員が最後まで集中して、丁寧に楽しみながら取り組んでいる様子が見られました。今回、ガラスタイルの分配やセメントの分配などの活動に必要な準備を、活動前に余裕をもって行うことができたため、スムーズに活動を始めることができました。来年以降も、STや手の空いている実行委員の方に協力をしてもらい、活動前に余裕をもって材料の準備を行うことができれば良いと感じました。

最後になりますが、活動を進めるにあたり、無事に活動を終えることができたのは参加してくださった子どもたちや保護者の皆様、子どもたちのために教材づくりを手伝い、子どもたちと真剣に向き合って一緒に活動に取り組んでくれた学生ボランティアの方々、準備から当日まで子どもたちのサポートや臨機応変な対応をしてくださった社会人ボランティアの方々、その他活動に関わってくださったすべての方々のおかげです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

担当：小倉　紀香（地域教育専攻４年）

中学・高校生ブロック　クッキング

中高生ブロックは、8 月 8 日(金)、3 日目の午後にクッキングを行いました。クッキングでは、「ヨーグルトパフェ」を作成し、食べて楽しみました。

この、「クッキング」の活動は、コロナ禍で 1 度休止していた活動ですが、今年から復活させることができました。

「クッキング」は、その他の制作活動と比較すると、人の口に入るものである以上、衛生面や安全面により一層配慮する必要がありました。(食物アレルギー、服用中の薬、子どもの好き嫌い etc.)また、子どもたちが安全に扱える食品であるか、安全に調理することが可能かどうかも考えたうえでヨーグルトパフェの材料を選定しました。

当日は、「クッキー」、「ヨーグルト」、「缶詰フルーツ(桃、ミカン、パイン)、「生クリーム」、「アラザン」、「カラーチョコスプレー」、「ポッキー」の材料を準備して、パフェを作成しました。子どもたちが自らの好みに合わせて材料を取捨選択することが可能な形式をとったこともあり、楽しくパフェを作り、おいしくパフェを食べている様子が伝わってきました。

しかし、このクッキングの活動には課題点もいくつか残りました。

1 つ目は、食材の下ごしらえについてです。缶詰フルーツの中には、決して一口サイズとは言えないものも多いため、一口大にカットする必要がありました。そのため、最初はスプーンで須くカットしようと考えました。しかし、選択したフルーツのラインナップ的にそれは厳しいと考えられたため、当日にキッチンバサミでのカットに変更しました。

2 つ目は、子どもたちが活動中に手や服が汚れるかどうか、より配慮するべきであった点です。今回のクッキングでは、べたつきのある甘い材料や、細かい粒などのこぼれやすい材料が多かったため、手や服が汚れるリスクがありました。しかし、運営側の準備のレベルでは、防ぎきれない部分も多々生じておりました。そのため子どもたちに少し戸惑わせてしまう部分もあったと考えられます。

このように課題点もいくつか見られましたが、おおむね子どもたちと学生ボランティアが楽しんでいる様子が伝わってきたため良かったと思います。次年度のサマスクでもクッキング活動を行うこととなった際には、さらなる高みを目指し、なおかつ子どもたちがより楽しめる活動になっていることを願っております。

最後にこの 4 日間、参加してくださった子どもたちやその保護者の皆様、事前準備の段階から活動をサポートしてくださった学生ボランティア、社会人ボランティア、実行委員の皆様、ご迷惑をおかけした点も多かったと思います。しかし、それでも協働的に、臨機応変に動いてくださり、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

担当：富原はづき（地域協働専攻）

4）めばり活動

めばり活動

1 日目の午後の活動は、体育館においてめばり活動を行いました。今年の本活動は従前とは異なり、小学生ブロック、中・高ブロックに加えて2021年に新設されて以来初の幼稚園ブロックも活動に参加し、全員での活動となりました。

毎年、めばり活動には、テーマが設定されているのですが、今年のめばり活動のテーマですが、今回はあえてテーマの設定をしませんでした。理由は様々あるのですが、一番は絵を描くこと自体の楽しさを子どもたち自身に味わってほしいと考えたためです。そのため、作成した教材も「絵を描くこと」に焦点を当てたものにしました。作成した教材は「段ボールスタンプ」「霧吹き」「ドットマーカー」「ハンマースタンプ」の4つです。

各ブロックの活動の様子ですが、小学生ブロックの子どもたちは、自分で色を混ぜながら筆やスタンプで丁寧に絵を描いていく子どもや、ローラーや霧吹き、さらには自分自身の手足を使って普段は体験できないような大胆な描き方をする子どもなど多様な描き方が見受けられました。また、今年は下書きのない布で行ったので、自由に描くことを苦手とする子が楽しめるか不安ではありましたが、他の子どもたちが描いている様子を見て真似して自分も描いたり、学生ボランティアと話し合いながら何を描くか決めていたりする様子が見受けられ、時折笑顔が見られたのが印象的でした。幼稚園、中・高ブロックでは、それぞれが筆やローラー、作成した教材を使いながら個人個人で楽しんでいる様子が印象的でした。特に「霧吹き」が人気で、完成したイラストはとても色鮮やかな仕上がりになっていました。また、こちらのグループでも、他の子どもが道具を使っている様子を模倣して描く姿も見受けられました。そして、どちらのグループも共通して、活動から逸脱する子がほとんどいなかったことも印象的で、彼らが、思い思いに創作活動に打ち込めたことの現れだと認識しています。

今年の活動における課題は事前準備の不備でした。一つ目は水浸し対策で、前日準備の段階で体育館に敷く予定のブルーシートに穴が見つかり、急遽新聞紙を追加することとなりました。二つ目は布のスペース不足で、絵を描く時間を例年より長く確保した結果、活動後半にスペースが足りなくなり、余り布で対応しました。布のサイズに関しては、以前から課題には挙がっていましたが、「めばり」として使用することを考慮すると単なるサイズの拡大は好ましくないと判断し今回のサイズの決定に至りました。来年以降は改めて対策を検討すべきと感じています。

最後に、子どもたちが安全に楽しく活動する様子が見られたのも、偏に不測の事態にも臨機応変に対応してくださった社会人ボランティア、・実行委員会の皆様、また、教材づくりや前日準備において会場設営を手伝ってくださり、当日、子どもたちの一番近くで、安全に配慮しながら活動してくださった学生ボランティアの皆様などご協力くださった方々のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。

担当：高橋真叶（地域教育専攻 2 年）

5）アダプテットスポーツ

アダプテッドスポーツ

八幡小学校の体育館にエアポリン、プラズマカー、フロート R、スクーター、フライングディスク、ボッチャの6つのブースを設け、子どもが自由に選択して遊ぶ活動を行いました。各ブースの内容と反省点について以下に示します。

エアポリンは体育館の隅に置き、その周囲にマットを敷いて靴を脱いで活動を行いました。また昨年度の反省を踏まえて壁とエアポリンの間にマットを立てかけ、社会人ボランティアと学生二名で支えながら子どもが隙間に落ちたり頭をぶつけたりしないように工夫しました。反省点はエアポリンから子どもが落ちそうになる様子が見られた点です。事前に学生ボランティアに注意事項を伝え、周囲の学生たちは子どもが怪我をしないようにより気をつけていく必要があると考えられます。

プラズマカーはコーンでコースを作り、自由に運転する活動を行いました。子どもたちが学生ボランティアと一緒に競争して楽しんでいる様子が見られました。反省点は長時間ずっと使い続けてしまう子どもがいた点です。タイマーを用いて時間を示し、交代時間を明確にする必要があると考えられます。

フロート R は体育館の中央に丸や三角の形をした大きな風船のようなものを3つ設置し、「寄りかからない」というポスターを貼って活動を行いました。反省点は上に飛ばしたフロート R ばかりに注意が向き、周囲の人とぶつかりそうになっていた様子が見られた点です。周りの学生たちで声を掛け合ってより周りに気をつける必要があると考えられます。

スクーターは「ボードの上に立たない」というポスターを貼り、ボードの上に腹ばいになって壁を蹴って進む活動を行いました。周囲の様子に気をつけながら楽しそうに競争している様子が見られました。反省点はスクーターで進む範囲を明確にしていなかったため他のブースにスクーターで進んでいってしまった点です。コーンなどでスクーターの範囲をあらかじめ定めておく必要があると考えられます。

フライングディスクはディスクを投げる輪とディスクを設置し、投げる場所を定めたうえで活動を行いました。子どもが学生ボランティアと協力してディスクをまっすぐ飛ばせたと喜んでいる様子が見られました。

ボッチャは床に点数の書かれた的を敷き、赤と青のボールを設置して活動を行いました。学生ボランティアと子どもが競いながら楽しんでいる様子が見られました。

全体を通して活動に熱中してしまい、時間を忘れている様子が見られました。そのためタイムタイマーを2個以上用意して活用すること、活動終了時間をあらかじめ伝えておく必要があると考えられます。

最後になりますが社会人ボランティアの皆様、高校生ボランティアの皆様、そして子どもたちと関わってくれた学生ボランティアの皆様のおかげで誰一人怪我をすることなく活動を終えることができました。本当にありがとうございました。

担当：兼平　このは（地域教育専攻4年）

6）音楽活動

音楽活動

音楽活動は小学生ブロック、中・高校生ブロックに分かれて計 2 日間行いました。子ども達が普段学校生活で扱う器楽や歌唱、音楽づくりといった内容ではなく、身の回りにある材料を使って音をつくる活動を行いました。実際には、ドラム缶、一斗缶、缶詰などの缶類コーナー、ペットボトルや卵のパックなどのプラスチック類コーナー、新聞紙やお菓子の箱などの紙類コーナー、さまざまな長さに切り分けた竹のコーナーなどを用意し、子どもたちが自由に音の出し方を試して楽しめるようにしました。また、大きな音・雑音が苦手な子ども達に配慮し、ペットボトルの中に子ども達が好きな材料を選んで入れて楽器をつくるブースや、マレットをつくるブースを用意しました。また、この活動は北海道教育大学函館校准教授の長尾智絵先生にご助言、ご協力いただきました。

子ども達が大きな音を嫌がるのではないか、という心配がありましたが、ほとんどの子どもたちは自分で好きな材料を手に取って音を鳴らすことを楽しんでいました。ただ一つの材料を叩く等して鳴らすだけにとどまらず、缶と缶同士を両手に持って音を出したり、竹で缶を叩くなど異素材のものを使って鳴らしたりと子ども達のアイディアがたくさん見られた音楽活動でした。また、伴奏として学生が演奏していたキーボードにも興味をもつ子どももおり、即興的に演奏することを楽しんでいる様子がありました。楽器を演奏し、学生ボランティアから楽器のイラストが描かれたシールをもらいながら子ども達は自分の好きな音や嫌いな音を考え、シールを貼っていました。

サマースクールで音楽活動を行うのは初めての取り組みでしたが、長尾先生に助言いただき、年齢差や発達差があっても多くの子どもたちが楽しめる活動を実現できたと感じています。また、学生ボランティアや社会人ボランティアの皆様が子どもたちと一緒に音楽をつくり、楽しんでくださったおかげで活動がよりよいものになったと感じています。さらに、缶などの材料の収集や教材づくりにあたっても、サマースクール実行委員をはじめ多くの方々に協力していただきました。音楽活動に協力して下さった全ての方々に感謝申し上げます。

担当：鈴木緋菜、小倉紀香（地域教育専攻 4 年）

7）縁日

縁日

【縁日全体】

今年は運営体制をかえ、グループごとの出し物が中心の縁日になりました。社会人ボランティアの皆さんや高校生ボランティアの皆さんの力をお借りしたので、楽しい縁日になりました。来年は運営側もより楽しめるように運営体制を改善したいと考えています。縁日の準備や運営にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

【グループごとの報告】

A グループは犬の制作をしました。子どもたちは、それぞれオリジナルの犬を作りました。どれも個性豊かで素敵な作品ばかりでした。そして、自分で作った犬をコロコロと引っ張っている様子がとても可愛かったです。

Bグループはトレジャーハントを行いました。ダンボールで作成した迷路にたこ焼き、的当て、ボーリングのミッションを各場所に設置し、ミッションを攻略しながら迷路を進んでいくという内容です。子どもたちが楽しそうにミッションを攻略して遊ぶ姿が見られました。

C グループは、お面作りとガチャガチャのカプセルと紙皿を使ったコマ作りを行いました。子ども達は自分の好きな色やキャラクターを選んで楽しく制作活動に取り組んでいました。

D グループはもぐらたたきと缶つりをしました。もぐらたたきではハンマーでもぐらを叩いて遊んでいました。缶つりでは釣り竿で缶を釣り、上手に積み上げていました。景品のお菓子もあり、楽しそうに遊んでいました。

E グループは輪投げと魚釣りをしました。輪投げは子どもたちそれぞれが目標の的をめがけて一生懸命に姿が、魚釣りではルーラーを回して魚を釣り上げるというなれない遊びを楽しんで行ってくれたことが印象的でした。

【アダプテッドスポーツ】

体育館を 6 つのブースに分けて活動しました。毎年人気のエアポリンやプラズマカーの他に今年はスクーターも大人気でした。子どもたちが全力で遊び、誰 1 人怪我をすることなく活動を終えられたため良かったです。

【食べ物】

今年も八幡ホールでかき氷、ポップコーン、わたあめを提供しました。おいしそうに食べ物を食べている子どもたちの様子が見られました。

【風船ハウス】

風船だらけの部屋で自由に遊ぶ活動をしました。楽しそうに風船に埋もれている子どもの姿が見られました。急に風船が割れることがあるので対策したいと考えます。

4. 運営

1）清掃

〇仕事内容

清掃係は、清掃用具の確認と備品の管理、当日の清掃の運営を主に行いました。事前準備では7月に清掃準備を開始し、不足している備品の補充や当日の実行委員と学生ボランティアの清掃場所の分担、大掃除の日の清掃の流れを決めました。前日準備では、各清掃場所への備品の配置を行い、当日は子どもたちが下校した後、清掃サブを中心に各ブロックが清掃に取り組むことができるように決めました。大掃除は、実行委員長・物品管理係とともに学生全体を動かすよう指示をしました。

〇スケジュール

日程	活動内容
7月	・清掃用具の在庫と必要個数の確認
	・不足物品の発注
	・清掃方法、清掃区域の決定
	・清掃チェック表、清掃分担表の作成
8月	《前日準備》・八幡小学校の清掃用具の回収、復元写真の撮影 ・清掃用具の設置
	《通常清掃》・不足物品の補充
	《大掃除》・八幡小学校の清掃用具の復元 ・清掃用具の回収、個数の確認　・当日の動きの指示

〇反省

今年は昨年よりもサマースクールで子どもたちと活動する時間が長かったため、短い時間で校内の清掃が終了するか見通しがもてない部分がありました。しかし今年は学生ボランティアの地域教育専攻の1年生が全日参加してくれ、人手が多くあったため、時間内に清掃を終えることができました。最終日の大掃除については、前日に学生ボランティア、社会人ボランティア、実行委員の動きをそれぞれ話し合い、子どもたちが帰宅した後の流れを確認しました。しかし、実行委員に動きを再確認することができず、想定通りに進まないことがあったり、用意した清掃用具が正確に返却されなかったりなどの反省点が挙がりました。要となる実行委員が仕事を把握できるよう、清掃の直前にも動きを確認できればよかったと思いました。また、備品係とも連携し、どの時間でどの作業を優先させるのか、誰を動かさなければいけないのかを事前の入念な打ち合わせが必要だと思いました。来年度のサマースクールではこれらの点を改善し、これからも八幡小学校をお借りできるよう、丁寧な清掃をし、効率よく行えるようにできたらと思います。

担当：鈴木緋菜（地域教育専攻4年）

2）物品管理

〇仕事について

　備品係は、八幡小学校で行われたサマースクールの運営にあたり、使用する備品や教材の準備や管理を担当しました。事前の計画から前日の設営、実施期間中の備品管理や片付けまで、活動が円滑に進むようにサマースクールの活動のサポートにあたりました。

【備品の管理】

・現在備品庫に保管されている備品の不足を確認する

・今年度の活用に必要な備品を書く活動の MT やグループのチーフから聞き出し、実行委員長や会計係と連携して、必要備品の検討を行う

・会計担当に発注の依頼を行う

・八幡小学校での打ち合わせを行い、八幡小学校の備品の使用許可や借用許可を得る

【前日準備・片付けの計画作成】

・前日準備、片付けの備品運搬の計画を立てる

・当日、学生ボランティアや実行委員会が滞りなく物品の運搬や会場設営が行えるように、指示を出す

〇スケジュール

日時	内容
5 月	・備品庫清掃、整理
6 月	・備品在庫管理（備品庫調査） ・発注依頼
7 月	・前日準備、片付けの計画作成
8 月	・八幡小学校へ移動する物品を整理 ・物品移動の指揮 ・備品庫整理

〇感想と反省

　今年度も、八幡小学校の備品や教室、プールを快くお貸しいただき、充実した活動を行うことができました。特に、水遊びの日は、あいにくの雨でしたが、屋内プールを使用させていただいたことで、予定通り実施することができました。また、各グループに備品係を配置し、実行委員には、校舎内の担当箇所を割り当てたことで活動後の校舎復元もスムーズに進みました。反省点は、大学から持参した備品にラベルを貼っていても、大学に戻すときには剥がれてしまい、八幡小学校の備品と混ざってしまうことがありました。特に、搬出元・搬入先を記した用紙が剥がれやすく、毎年忘れ物や誤って持ち帰る備品が発生しています。来年度は、ラベルや記録用紙が剥がれないよう、養生テープなどでしっかり固定する工夫が必要であると考えます。

担当：萩原風季　（地域教育 4 年）

3)駐車場

〇仕事内容

サマースクールの当日の朝と帰宅時に保護者が子ども達を送迎する際、駐車場に停めるまでの誘導、駐車場から八幡小学校会場までの誘導、駐車場から道路に出るまでの誘導を行いました。昨年同様、亀田八幡宮様に駐車場を貸していただきました。

〇スケジュール

日程	活動内容
7月	・亀田八幡宮様への駐車場使用の依頼 ・社会人ボランティア配属振り分け
8月	・サマースクール当日の誘導

〇タイムスケジュール

〈登校時〉8 月 6 日～9 日　8:50～9:30

〈下校時〉8 月 6 日～9 日　14:15～14:45 (9 日のみ 12:15～12:45)

登校時、下校時ともに駐車場係の学生2名と社会人ボランティア1名で行いました。

〇感想と反省

サマースクール当日は無線機を使用し、本部と連絡を取り合ったことや、保護者の方への案内となるパネルを使用したことで、スムーズな誘導を行うことができました。今年度は気温が高い中や、雨の中の仕事になることがありました。来年度以降の担当者は気温や天気に合わせて飲み物やタオル、傘等を準備することが必要だと思います。

印象的であったのは、登下校の際の子どもたちの笑顔と、保護者の笑顔です。毎日、子ども達と保護者の方が笑顔で「おはようございます」と言って来て、笑顔で「ありがとうございました」と言って帰る姿を見て、この姿を見ることができたのは、改めてサマースクールに関わっている全ての方々のおかげだと感じました。駐車場係の仕事を通して、サマースクールの活動は社会人ボランティアの方々や毎日送迎してくださった保護者の皆様、協力してくださった亀田八幡宮の皆様等、とても多くの方の協力によって実現しているものであると痛感いたしました。

最後になりますが、多くの方々のご協力により、4日間を通して事故なく安全に終えることができました。初めて担当する係であったことで、至らない部分も多々あったと存じますが、駐車場を貸してくださった亀田八幡宮の関係者様、お忙しい中サマースクールに協力してくださった社会人の皆様に深く感謝申し上げます。

担当：小倉　紀香・山口　水緒（地域教育専攻4年）

4)決算報告

内訳	
収入全体	¥245,380
支出全体	¥245,380

【収入】

内訳		
基本活動費	¥52,000	
（基本参加費）	（	¥52,000 ）
保険代	¥3,840	
（参加児童生徒/高校生など）	（	¥3,840 ）
昼食代	¥189,540	
総額	¥245,380	

【支出】

内訳	
基本活動費（グループ費）	¥10,000
全体運営費	¥42,000
（本部運営費）	(¥10,106)
（縁日費）	(¥20,875)
（保健衛生費）	(¥0)
（活動補助）	(¥11,019)
保険代	¥3,840
総額	¥245,380

【収入】－【支出】＝今年度残金　¥0

5. 係活動

1）参加者係

〇活動内容

参加者係は、函館市内・北斗市内・七飯市内の小・中学校や特別支援学校、児童発達支援センターを通して、サマースクールに参加する子どもたちを募集しました。次に参加が決まった子どもたちの実態を把握するための個別調査書や参加者名簿などを幼・小・中高ブロックに分けて作成し、サマースクール当日までの間それらの管理を行いました。また作成した参加者名簿を基に、子どものグループ分けを行いました。そして学生ボランティアの名簿と照らし合わせながら、担当の子どもを決定しました。その後個別ミーティングの日程を調整し、参加者決定通知・個別ミーティング日程通知を作成して郵送しました。また、個別ミーティング前日に日程の確認の電話を各ご家庭に入れました。

〇スケジュール

日程	内容
4 月	・サマースクール参加者希望者からの資料請求への返送
	・参加者申し込み書などの書類管理
5 月	・参加者参加者名簿の作成
6 月	・子どものグループ分け
	・参加者決定通知の作成・郵送
	・個別ミーティング日程の確認の連絡を入れる。
7 月	・個別ミーティングで諸経費の集金
8 月	・参加者資料を本部にて管理

〇感想・反省

今年度の参加児童は昨年より 14 名増え、33名でした。いただいた情報を間違いのないように管理することを心がけ、複数人で何度も書類を確認しながら係活動を進めました。沢山の協力や支えを感じながら係活動を進めることができました。特に就職活動と重なる時期に協力してくれた4年生には感謝の気持ちでいっぱいです。

反省点として、申し込み期間が終わってからの動きについて詳しく記載していなかったため、サマースクールの参加者決定した後の動きについて不安にさせてしまったことがあげられます。サマースクール当日までの流れを初めて参加してくださる保護者の方でもわかるように資料の改善と次年度の担当者へ引継ぎをします。

サマースクールに参加してくださった児童生徒の皆様、参加を承諾してくださった保護者の皆様、今年度も本当にありがとうございました。来年度のご参加も心よりお待ちしております。

担当：渡邊菜々子・兼平このは

2)学生ボランティア係

〇活動内容

学生ボランティア係は、主に子どもたちと一緒に活動するボランティアを学生の中から募集する活動を行いました。今年度も応募していただいた学生ボランティアの名簿を作成・担当児童生徒の振り分けをしました。前年度の質問項目に個別ミーティングの日程の希望や取得予定の教育職員免許状を加え、グループ分けや情報をまとめるときに活用しました。

日程	活動内容
4 月	・学生ボランティア募集ポスター掲示開始
	・学生ボランティア募集について授業まわり
6 月	・学生ボランティア募集・授業の位置づけについて授業まわり
	・学生ボランティアの名簿作成、管理、連絡
	・学生ボランティアのグループ分け
	・担当する子どもを決定
	・出欠表の作成
	・各説明会、個別 MT の資料作成
7 月	・個別 MT にて諸経費を集金
8月	・学生ボランティアの資料を本部にて管理
	・それぞれの出席表を一つにまとめる。

〇感想・反省

学生ボランティアの情報の管理やグループ分けなどを複数名で進めることができたことは良かったと思います。しかし今年は6月にやることを詰めこみすぎてしまい、学生ボランティアの皆さんにとって、負担が大きかった部分もあったと思いました。来年度は学生ボランティアの皆さんがより見通しをもてるように、わかりやすい情報の提示日や情報量について改善していきたいと考えます。

実行委員が取り組みたいと思った活動を実現できるのは学生ボランティアの皆さんのおかげです。サマースクールに参加してくださった学生ボランティアのみなさん本当にありがとうございました。また、来年度以降の参加もお待ちしています。

担当:兼平このは・渡邊菜々子

3）社会人ボランティア係

〇活動内容

社会人ボランティア係は、サマースクールの活動をサポートしていただける社会人ボランティアの皆様に協力を依頼しました。さらに、社会人ボランティアのグループや運営係への配属の振り分け及び配属の決定通知の郵送を行いました。その他にも、サマースクール当日には社会人ボランティアの仕事内容の確認を実行委員長と協力して行いました。

〇スケジュール

日程	活動内容
3 月下旬～	・各資料作成
4 月	・社会人ボランティア OG・OB リスト作成
5 月	・各資料作成
6 月	・社会人ボランティア募集用紙郵送
7 月	・社会人ボランティア参加希望者リスト作成
	・社会人ボランティア配属振り分け
	・社会人ボランティア配属決定
	・配属決定通知郵送
8 月	・受付準備
	・サマースクール
	・礼状発送

〇感想と反省

社会人ボランティアの方々のお力添えを通して、このサマースクールは本当に多くの方々のご協力の上に成り立っていることを改めて実感いたしました。当日は学校現場でご活躍されている社会人ボランティアの皆様にさまざまな場面で助けていただくとともに、子どもへのかかわり方についても学ぶことができました。

また、当日は急なお願いや役割の変更をお願いする場面もありましたが、社会人ボランティアの皆様には柔軟かつ臨機応変にご対応いただきました。今年のサマースクールが大きな事故やけがもなく、無事に終えることができたのは、まさに社会人ボランティアの皆様のお力添えのおかげであると心から感謝申し上げます。

結びに、お忙しい中ご協力いただきました社会人ボランティアの皆様、そしてサマースクールを支えてくださったすべての皆様に、改めて深く御礼申し上げます。今回得られた学びを今後の実践に活かし、より良い教育活動に貢献できるよう努めてまいります。

担当：牛島昌・小河光（地域教育専攻 4 年）

4）お弁当係

サマースクールが今年から全日開催になったことに伴って、お昼の時間にお弁当を食べることになった。お弁当は、前日準備、1日目、2 日目、3 日目、最終日の計5日間注文した。全てのお弁当を予備で2個多く注文した。児童のアレルギーや好き嫌い、食事の際に留意しておくべきことについて参加申込書と合わせて事前にアンケートを取り、個別ミーティングの際に保護者と改めて情報の確認と共有を行った。また、学生ボランティアには、説明会の際にアレルギーに関するアンケートをGoogleフォームにて解答してもらった。嘔吐してしまった児童に対応できるように、保健管理センターの河上靖子様からご助言をいただき、嘔吐物処理キットを作成し各グループ活動場所に設置した。前日準備と最終日は「Cafe & Restaurant グリーンリーフ」様に、学生ボランティアと実行委員の人数分のお弁当を注文した。注文の際に、お弁当に含まれる食材やアレルギー成分についての説明をいただいた。前日準備の日は生姜焼き定食、最終日はロコモコ丼を注文し、八幡小学校の正面玄関への配達をお願いした。ごみの回収は行っていなかったため、グループごとにごみをまとめて回収し、大学の体育館裏のごみ捨て場に運んだ。1日目から3日目までは「甚兵衛　中道店」様に、参加児童、学生ボランティア、社会人ボランティア、実行委員の人数分のお弁当を注文した。注文の際に、お弁当に含まれる食材やアレルギー成分についての説明をいただいた。1日目はお子さまハンバーグ弁当、2日目はお子さま甚兵衛ザンギ弁当、3日目はお子さまおむすび＆ハンバーグ弁当を注文し、八幡小学校の正面玄関への配達をお願いした。参加者の中に鮭アレルギーの児童がいたため、鮭が含まれているお弁当は鮭を抜いてもらい、鮭味のふりかけが児童に渡らないように袋を別にするなどして対応した。保護者へのアンケート結果より、咀嚼が苦手なため細かくしてから食べさせてほしいという要望が多く見られたため、各グループに一つずつ食用はさみを用意した。届いたお弁当は本部に運び、お弁当係がグループごとに段ボールにお弁当と食用はさみを分け、各グループの実行委員または社会人ボランティアに本部までお弁当を取りに来てもらうことにした。また、ごみはグループごとに回収し、食用はさみと一緒に本部までもってきてもらった。お弁当を注文しない児童にはお弁当を持参してもらい、担当の学生ボランティアと一緒に本部向かいの教室にまとまって食べた。ごみの回収は営業時間以内に店舗にもっていけば処分するということだったため、社会人ボランティアの方にお願いし、ごみを店舗まで運んでもらった。

〇来年に向けて改善すべき点

甚兵衛のお弁当にはプラスチックの先割れスプーンが人数分入っていた。箸でないと食べられない、先割れスプーンが折れてしまったということがあったため、予備の先割れスプーンや割り箸を用意しておく。また、名簿作成の段階で名前が重複している学生ボランティアがいた。また、グループに所属していない実行委員（実行委員長、副実行委員長）の分のお弁当が注文個数に含まれていないということがあった。これらの理由により、当日のお弁当の個数にずれがあったため、お弁当係が最新の名簿はどれなのかを常に把握しておく。

児童へのお弁当は全てお子さま弁当を注文した。幼稚園ブロックから中高生ブロックまで年齢に差があり、学生ボランティア、社会人ボランティア、実行委員も同じお弁当を食べるため、量が足りないという意見が多かった。お弁当の種類とサイズを複数個用意し、選択できるようにする。

担当：仲澤平等・島貫瑛明（地域教育専攻4年）

6. 参加者の声

1）社会人ボランティアの声

原点に立ち返る

札幌市立東光小学校
教諭　越智　美雨

大学 1 年生の頃から参加させていただいて，今回が 9 回目のサマースクールとなりました。私は，1 日でも参加できるなら，場所が離れていても飛んできたいと思うほど，サマースクールが大好きです。学生だった頃，まだ小さくて，走り回っていた子どもたちが，今となっては立派なお兄さん・お姉さんになっている姿を見るのが微笑ましいのです。無邪気に遊んでいる姿も，学生さんに甘えている姿も，上手に出来なくてイライラしている姿も，疲れ果ててヘトヘトになっている姿も，全てが本当に可愛らしい。私は，子どもたちが本来あるべき姿というのが，サマースクールにつまっているような気がします。

社会は大きく変化していき，自分が思っている以上に多くのことを求められる世の中ですが、サマースクールに参加している子どもたちを見ていると，自分の頭の中を縛り付けている紐がほどけていくような感覚があるのです。私の恩師である細谷一博先生はいつも「目の前にいる子どもたちのために，自分たちに何ができるのか」ということを問い続けてきてくれました。サマースクールにおいて，その問いに対する答えを見つけようと必死にもがいているのが，実行委員や学生ボランティアのみんなです。猛暑の中，汗を流しながら，子どもたちのために何ができるのだろうと考えて行動している姿はかっこいい。特に，今回はコロナ禍以降なくなっていた昼食が復活し，午後の活動が増え，手探りで活動を進めてきたのであろうと思うと，実行委員は大変であっただろうなと思います。

学校現場にいると多忙さにかまけてしまったり，色々と焦って学級経営に関する本を読み漁ったりしてしまいますが，「ただ純粋に子どもたちと遊んで，目の前にいる子どもたちから学ぶ」ことの大切さを思い出させてくれるのがサマースクールです。

私は，これからもサマースクールに参加してくれる子どもたちや学生さんから，多くのことを学ばせていただきたいと思います。

最後になりますが，今回も多くのことを学ばせてくれた子どもたち，学生の皆さん，そして細谷一博先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。

2）学生ボランティアの声

4 日間のサマースクールを通して、本当に多くのことを学ぶことができました。担当する子どもと初めて会う日は、「上手く打ち解けられるかな」と始まる前は不安がありました。しかしそれ以上に、「どんな子どもなのだろう」「どんなことが好きなのだろう」という期待とわくわくした気持ちが大きく、当日を迎えるのがとても楽しみでした。実際に担当の子どもと初めて会い、無邪気な笑顔を見た瞬間に、これから一緒に過ごすことに期待がさらに膨らみました。サマースクール当日は、「覚えていてくれているかな」という緊張がありましたが、子どもが笑顔で駆け寄ってきてくれたことで、その気持ちはすぐに消えました。その笑顔を見た時、「今日から 4 日間、全力で一緒に楽しもう」と強く思いました。自己紹介の場面では、少し恥ずかしがってなかなか話したがらない様子もありましたが、無理にさせるのではなく、その子のペースに大切にしながら関わることを意識しました。子どもが安心して自分らしく過ごせるように心を配り、「この 4 日間が楽しかった」と思ってもらえるように過ごそうと決めました。

活動の中で難しいと感じたのは、自由時間から次のプログラムへの切り替えでした。遊びに夢中になっている子どもにどのように声をかければスムーズに移行できるのか悩みました。その日の振り返りでは、先輩方や社会人ボランティアの方々から、次の活動を少しずつ意識させる声かけや、視覚的に伝える工夫などの具体的なアドバイスをいただきました。実践を重ねるうちに、自分の声かけ一つで子どもの反応が変わることを自覚し、関わり方の大切さを学びました。日が経つにつれ、子どもたちは場に慣れ、笑顔を増えていきましたたが、その分元気があり余って危ない行動をとる場面もありました。そのような時には、ただ注意するのではなく、なぜそれが危険なのか、どうすれば安全に楽しめるのかを丁寧に伝えるように心がけました。初めは聞いてもらえませんでしたが、理由を伝えることで次第に自分から気を付けようとする姿が見られるようになり、子どもの目線に立ち、一緒に考えることの大切さに気づきました。また、子どもが泣きだしてしまう場面もありました。その時、社会人ボランティアの方が寄り添い、焦らず子どもの気持ちが落ち着くまでそばにいる姿をみて強く印象に残りました。その対応を通して、寄り添うとは子どもの気持ちを尊重し、安心できる空間を作ることなのだと感じ、自分もその姿を見習い、子どもが安心できるような関わりを意識しようと思いました。こうした大人の方の姿から学ぶことも多く、自分の視野が広がったと感じます。

4 日間という短い期間でしたが、毎日子どもと向き合い、楽しく遊び、時には上手くいかず悩みながら過ごした時間はとても濃く、かけがえのない経験になりました。最終日には、終わってしまうのかと名残惜しい気持ちでいっぱいになり、またねと子どもが言ってくれたことは本当に嬉しかったです。このサマースクールを通して、子どもたちの成長を間近で見る喜びや、人と関わる中で自分自身も成長していくことができました。この経験は、今後の学びや将来の仕事にもつながる機会であったと感じています。子どもと関わるうえで大切なのは、相手を理解しようとする気持ちと、寄り添う姿勢だということを改めて実感することができました。

学生ボランティア：金澤美穂（地域教育 1 年）

2）学生ボランティアの声

サマースクール初日は、私の担当の子供と信頼関係を築くことを心掛けました。コミュニケーションの取り方を模索している中、彼をおんぶした際に楽しそうな表情を見せてくれたのが印象的でした。開会式が始まるころには、彼との距離が縮まり、良い関係を築けたと感じました。

二日目からは、日常的なやりとりを通じて、よりスムーズなコミュニケーションが取れるようになりました。「次は〇〇します、分かりましたか？」という声かけに対して、「分かりました！」と元気に返事をしてくれる姿を見て、彼とコミュニケーションを取れたことを感じて嬉しかったです。また朝礼や帰りの挨拶にも参加してくれ、彼の積極性が嬉しかったです。この体験から、相手に対して質問を投げる方法として「はい」または「いいえ」で答えられる形式が有効であることを学びました。

一方で、彼が甘えてくれるようになったことで、私の注意力が緩んでしまう場面もありました。立ち入り禁止のスペースに入ろうとした彼に、優しく注意しすぎてしまった結果、彼が他の実行委員に注意されることもありました。この出来事は、私が大学生としての役割を果たす一方で、教員としての責任の重要性を再認識させられました。今後は、注意が必要なことに対しては、しっかりと伝える姿勢を持ち続けたいと思います。

二日目、三日目の活動を通じて、彼が「いやいやモード」に入った時も焦らずに対処できるようになったことは、自分自身の成長を感じた瞬間でした。先輩方がどうコミュニケーションをとっているかを学びながら、彼が何を楽しんでいるのかを理解しようとする姿勢も身に付けることができました。

最終日、彼からのサプライズ手紙をもらったとき、思わず涙がこぼれました。この四日間で、彼から多くのことを学び、特別支援教育に対する興味も深まりました。特に、将来私が教員として働くために必要な力について気づけたことは、大きな学びでした。

サマースクールの達成感は非常に大きく、来年もぜひ参加したいと強く思っています。より多くの知識を持ち、子供たちと関わる機会を増やしていきたいと考えています。彼に再会できる希望も含め、次回のサマースクールに向けて心を躍らせています。

学生ボランティア：大柳空羽（地域教育専攻1年）

○ 新聞記事

○ 寄付金について

○ 地域探究学習（市立函館高等学校）

○ 実行委員会名簿

○ 編集後記

▶ 新聞記事

今年度の活動が、「函館新聞」に掲載されましたので、ご紹介いたします。

＜8 月 19 日：函館新聞＞

子どもたちが多彩な体験

八幡小でサマースクール

夏休み中の子どもを対象にした「サマースクールin函館」がこのほど八幡小学校で開かれた。幼児から高校生までの33人が参加。工作やレクリエーション、外出活動など多彩な体験を重ねて楽しんだ。

同スクールは、道教育大函館校の学生が中心となって毎年企画・運営する恒例の取り組み。学生や社会人、高校生ら約130人がボランティアで活動を支えた。

6～9日に開催。3つのグループに分かれて音楽やブロック遊びなどのレクリエーションを実施。体育館では、参加者全員で大きな布に自由に絵の具を使って描く「めぼり活動」に取り組んだ。

今年は初めて音楽活動を取り入れ、クッキング活動ではパフェ作りなど行った。外出活動では、小学生が「こどものくに」、中高生がキラリス函館の「はこだてみらい館」へ出かけ、体験を広げた。最終日には保護者も参加し、全員で縁日の遊びを楽しんだ。

実行委員長の道教育大函館校4年・古川心菜さん(21)は「昨年11月から準備を進め、子どもの安全と楽しい体験づくりに努めた。学生も全力で遊び、信頼関係を築く中で実践的に学べた」と話した。学生はボランティアを通じ、子どもと関わる楽しさや協働の大切さを学んだ。（清水孝光）

レクリエーションを楽しむ児童と学生

※サマースクールは 2020 年度より幼稚園ブロックを開設し、障害の診断の有無にかかわらず、年長児が就学に向けた小学校体験をすることを目的としたセクションを開設しております。

▶ ■寄付金／□活動協力

本活動の主旨をご理解いただき、以下の企業様にご支援を頂いております。頂きました寄付金についてきましては、本学の寄付金の受け入れ手続きに沿って適切に処理し、本活動の運営及び活動に使用させていただきました。

■ 株 式 会 社 北　　彩（代表取締役　福嶋　聖　様）
■ 社会福祉法人 宝　も の（理　事　長　齋藤　宇開　様）
■ 函 館 公 園 こどものくに（代表取締役　加藤　健一　様）
□ 特定非営利活動法人　スペシャルオリンピックス日本・北海道

※上記以外にも OB からの差し入れや保護者からの支援などを頂戴しております。記して感謝申し上げます。

▶　地域探究学習（市立函館高等学校）

市立函館高等学校における「地域探究学習」でサマースクールのフィールドが活用されています。当日の活動参加に加えて、市立函館高等学校での学習会（2025 年 6 月 25 日）が行われ、古川実行委員長と渡邊副実行委員長がサマースクールの説明を行いました。

▶ 実行委員会名簿

学年	氏名	所属	学年	氏名	所属
4年	古川　心菜	地域教育専攻	3年	小笠原理心	地域教育専攻
4年	渡邊菜々子	地域教育専攻	3年	島貫　瑛陽	地域教育専攻
4年	福田　音羽	地域教育専攻	3年	工藤　勇輝	地域教育専攻
4年	兼平このは	地域教育専攻	3年	菅野　　遥	地域教育専攻
4年	高井　美祈	地域教育専攻	3年	仲澤　平等	地域教育専攻
4年	牛島　　昌	地域教育専攻	3年	吉元　蒼波	地域教育専攻
4年	山口　水緒	地域教育専攻	2年	髙橋侃太郎	地域教育専攻
4年	吉田　汐里	地域教育専攻	2年	小泉　颯大	地域教育専攻
4年	萩原　風季	地域教育専攻	2年	村上　　叶	地域教育専攻
4年	鈴木　緋菜	地域教育専攻	2年	石手洗日菜	地域教育専攻
4年	小倉　紀香	地域教育専攻	2年	佐々木大世	地域教育専攻
4年	小河　　光	地域教育専攻	2年	山田　陽菜	地域教育専攻
4年	富原はづき	環境科学グループ	2年	南部　月渚	地域教育専攻
3年	佐藤虹太郎	地域教育専攻	2年	斉藤　佑依	地域教育専攻
3年	久保田　幸	地域教育専攻	2年	佐々木来海	地域教育専攻
3年	山本　陽花	地域教育専攻	2年	高橋　真叶	地域教育専攻

合計32名

編集後記

報告書をお読みいただきありがとうございます。

「サマースクールのお弁当のおかずで，いちばんすきだったのはなんですか」ときかれたら，みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。私は全部おいしくて好きしたが，特に2日目のからあげが一番好きでした。おいしすぎてもっとたくさん食べたいと思いました。また，学生ボランティアの皆さんと最終日の片付けの際に食べたロコモコ丼もおいしくて元気が出ました。私たち4年生が入学したころは，コロナ感染症の影響で食事を他者とすることの楽しさを忘れていたように思います。来年以降も楽しくみんなでお昼ご飯を食べて，午後も元気に遊びたいですね。お弁当の注文を受けてくださった企業様ありがとうございました。そして私の今年の推しポイントは，実行委員会の雰囲気が柔らかかったことがあげられます。約1年コツコツ準備をしてきましたが，それぞれがもっている力が合わさった素敵なサマースクールになったのではないかと感じています。特に実行委員長の統率力と忍耐力のおかげで団体として崩れることなく当日まで駆け抜けられました。

さて，今年度をもって「サマースクール in 函館」は，29 回目を迎えることができました。

今年度のサマースクールは，コロナ感染症が落ち着き，6年ぶりに昼食をはさんで一日の活動をすることができました。子どもたちのいつもとは違う表情をたくさん見ることや涙を流しながら学生ボランティアとのお別れを惜しむ姿を見ることができてとてもうれしく思います。また，子どもたち全員がケガなく，無事にすごせたことに，学生ボランティアや社会人ボランティアの強さを感じました。心より感謝申し上げます。

最後に，今年度もサマースクールが実施できたのは，活動に参加してくださった児童生徒の皆様，本活動の主旨をご理解いただき，参加を承諾していただいた保護者の皆様，そしてサマースクールにご協力いただきた皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

子どもたちがサマースクールから帰宅する時の「楽しかった」「来年も来たい！」などの言葉が私たち実行委員・学生ボランティアの励みであり，原動力です。参加してくれる子ども達あってこそのサマースクールは，来年で 30 周年を迎えます。一層素敵で楽しいサマースクールになるよう，新たな体制での実行委員・学生ボランティア一同，盛り上げていきますので，ぜひ来年もご参加ください。本当にありがとうございました。

担当：渡邊菜々子（地域教育専攻 4 年）

令和７年度　　北海道教育大学函館校「フレンドシップ事業」実施報告書
サマースクール 2025 in 函館　実施報告書

編集・監修　細谷一博（北海道教育大学函館校 地域教育専攻）
〒040-8567　函館市八幡町 1-2 北海道教育大学函館校細谷研究室
発行者　「サマースクール in 函館」実行委員会（代表：細谷一博）
発行　2025/12/31

hue